



豊かな学びで資質・能力を育む

いわての複式指導 実践事例集



はじめに

本県では、約3割の小学校が複式学級を有しており、小規模・複式指導の充実を図ることは、「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた社会を創造する能力を育てる「人間形成」のために欠かすことのできない視点となっています。

また、ここ数年の状況を見ますと、県内の各地域において新たに複式学級を編成する学校があり、複式指導を初めて担当する教員への支援が課題となっています。

本県には、長年にわたり培われてきた複式指導に関する知識や技術が蓄積されており、各学校で直接指導と間接指導を組み合わせた不断の授業改善が進められております。

本実践事例集は、それらの優れた実践を広く共有することにより、本県の複式指導の充実を図ることを目的として、県内各地の実践からぜひ参考にしたいポイントをまとめております。

複式指導を担当される先生方にとって、より適切で的確な各教科等の指導の展開を支援する資料として活用されることを期待しております。

岩手県教育委員会事務局学校教育室

《 目 次 》

実践事例1	【算数5・6年】八幡平市立平笠小学校	1
実践事例2	【算数5・6年】花巻市立笹間第二小学校	7
実践事例3	【算数3・4年】遠野市立小友小学校	14
実践事例4	【算数3・4年】奥州市立黒石小学校	21
実践事例5	【算数3・4年】陸前高田市立矢作小学校	31
実践事例6	【算数3・4年】宮古市立川井小学校	38
実践事例7	【体育5・6年】一戸町立小鳥谷小学校	48
実践事例8	【国語1・2年】岩手大学教育学部附属小学校	54
実践事例9	【社会3・4年】岩手大学教育学部附属小学校	59

(表紙写真 上から順に)

八幡平市立平笠小学校、花巻市立笹間第二小学校

算数 3・4年

八幡平市立平笠小学校 令和4年9月22日(木)

第3学年 大きい数のかけ算のしかたを考えよう
(東京書籍「新しい算数3上」P101)

第4学年 わり算の筆算を考えよう
(東京書籍「新しい算数4上」P101)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○「間接指導時間」における学びの深まり

令和4年9月に行われた学校公開研究会での実践です。研究主題「主体的に学び、考えを深める子どもの育成～他者との対話を通して～」に迫るために、直接指導において働かせたい見方・考え方を児童と確認し、それを生かして間接指導時にお互いの考えを交流できるようにしました。【写真①】

3年生は児童同士の対話の場面を複数回位置付けたことで、思考が徐々に整理され、その後の直接指導の交流の場面で自信をもって伝えることができ、表現力の高まりが見られました。また、対話で新たに気付いたことを、即座にノートにメモをする姿が見られ、学び方のスキルとして定着している様子が伺えました。【写真②】

4年生はコンパクトな導入(問題把握と見通し)により、個でじっくりと考える時間や、友達と考えを交流し合う時間を確保していました。また、十分な量の適用問題で習熟を図り、全員が評価規準(知識・技能)を概ね達成することができました。



直接指導の問題把握の場面で、「どのような見方・考え方」を働かせ、「何を解決すべきか」という学び合いの視点を焦点化させたことにより、その後の間接指導における児童の主体的・協働的な学びの姿につながりました。また、対話を通して学びが深まったことを具体的に価値付けることにより、友達と学び合うよさを実感できるようにしています。

両学年の学習内容に応じたタイムマネジメントも工夫されています。必ずしも両学年の直接指導の時間を同じにする必要はなく、難易度や活動内容に応じて配分することも有効です。

○学びの成果を確かめる時間の確保



授業終盤、指導者は児童に個別に問いかけ、本時に学んだ計算の仕方が説明できるようになったかを確認していました。【写真③】

4年生児童は振り返りの時間に、自ら教科書をめくり、既習との共通点を探る姿が見られました。教師の指示がなくても、前時までの学びと本時の学びを統合的に捉えようとする姿勢が身に付いてきていることが伺われます。【写真④】



「学びの成果を確かめる」の主語は教師と児童の両方です。教師は児童一人ひとりの変容に目を配り、「指導に生かす評価」を充実させることが大切です。また、統合的・発展的に考えることよさに気付かせたり、学びを通じた自己の変容を児童が自覚できるようにしたりする働きかけにより、主体的に学習に取り組む態度が育まれると期待できます。

第3・4学年 算数科 複式学習指導案

令和4年9月22日(木) 5校時
 3年男子5名 計10名
 4年男子0名 計3名
 授業者 教諭 千葉 郁男
 にここさポート 石川 千里

I 単元名	第3学年 大きい数のかけ算のしかたを考えよう	第4学年 わり算の筆算を考えよう
-------	---------------------------	---------------------

II 児童について	第3学年	第4学年
-----------	------	------

(省略)	(省略)	(省略)
------	------	------

III 単元の目標	第3学年 2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算の仕方について理解し、確実に計算することや成り立つ性質について理解できるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、乗法の成り立つ性質を活用したり、計算を確かめたりしながら、計算した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。	第4学年 2～3位数を2位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力を養うとともに、基本的な計算を基に考えた過程を振り返り、今後の学習に生かそうとする態度を養う。
-----------	--	--

IV 単元の評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組む態度
① 2位数や3位数に1位数をかける乗法をかける乗法の計算が、10や100のまとまりや乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解している。 ② 2位数や3位数に1位数をかける乗法の筆算の仕方について理解している。 ③ 2位数や3位数に1位数をかける乗法の筆算が確実にでき、それを適切に用いることができる。 ④ 乗法に関して成り立つ性質について理解している。	① 2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算を10や100のまとまりや乗法九九に着目して計算する方法を考えている。 ② 図と式とを関連付けながら、2位数や3位数に1位数をかける乗法の仕方を考えている。 ③ 2位数に1位数をかける乗法の仕方に着目して、3位数に1位数をかける乗法の筆算の仕方を考えている。 ④ 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	① 2位数×1位数、3位数×1位数の計算を、十、百を単位として考えれば、1位数×1位数の計算として求められるというよさに気付いている。 ② 計算に関して成り立つ性質を使うとき、計算するときに活用しようとしている。 ③ 単元の学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	① 10のまとまりに着目し、何十でわる計算の方法を考えている。 ② 除数が2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算の仕方を理解している。 ③ 除数が2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の筆算の仕方について理解している。 ④ 除数が2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算が確実にできる。 ⑤ 除法に関して成り立つ性質について理解している。
① 2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算を10や100のまとまりや乗法九九に着目して計算する方法を考えている。 ② 図と式とを関連付けながら、2位数や3位数に1位数をかける乗法の仕方を考えている。 ③ 2位数に1位数をかける乗法の仕方に着目して、3位数に1位数をかける乗法の筆算の仕方を考えている。 ④ 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	① 10のまとまりに着目し、何十でわる計算の方法を考えている。 ② 除数が2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算の仕方を理解している。 ③ 除数が2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の筆算の仕方について理解している。 ④ 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	① 10のまとまりに着目し、何十でわる計算の方法を考えている。 ② 除数が2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算の仕方を理解している。 ③ 除数が2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の筆算の仕方について理解している。 ④ 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	① (何十)÷(何十)の計算を、十を単位として考えれば、1位数の計算として求められるというよさに気付いている。 ② 除法に関して成り立つ性質を活用して、工夫して計算しようとしている。 ③ 単元の学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。

V 着目させたい既習事項	第3学年 乗法の意味 九九の構成 乗数と積の関係 乗法の分配法則と交換法則 倍概念 乗法の式の意味 (1つ分×いくつ分) かけ算の意味を表す具体的な図	第4学年 除法の意味 わり算の記号 九九を1回適用する除法計算 (余りなし) 九九を1回適用する除法計算 (余りあり) 余りと除数の大きさの関係 答えの確かめ方 何十÷1位数の計算 商が2位数になる簡単な除法計算 数直線図 わり算の意味を表す図 2位数÷1位数 3位数÷1位数 2位数÷1位数と3位数÷1位数の簡単な計算
--------------	--	---

VI 指導計画

		第3学年(11時間)			第4学年(14時間)				
時	ねらい	評価規準・評価方法等			時	ねらい	評価規準・評価方法等		
		○記録に残す評価	思	態			知	思	態
の何 か十 け・ 算何 百	1	何十、何百に1位数をかける計算の仕方について、10や100を基に考え、説明することができる。	○知① 行動観察 ノート分析	○態① ノート分析	1	10のまとまりを用いて、何十でわる計算の仕方を理解し、説明することができる。	○思① 行動観察 ノート分析	○能① ノート分析	
	2		○思① 行動観察 ノート分析		2	余りのない2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	○知① ノート分析	○思② 行動観察 ノート分析	
の2 数け をた かの け数 に 計1 算け 算け た	3 本時	2位数×1位数(部分積がみな1桁)の計算の仕方について理解し、説明することができる。	○思② 行動観察 ノート分析		3 本時	余りのある2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	○知②③ 行動観察 ノート分析		
	4	2位数×1位数(部分積がみな1桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	・知② 行動観察 ノート分析		4	2位数÷2位数の筆算で、過大商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。	・知② 行動観察 ノート分析		
の3 数け をた かの け数 に 計1 算け 算け た	5	2位数×1位数(一の位の数と部分積が2桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	・②③ 行動観察 ノート分析		5	2位数÷2位数の筆算で、過小商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。	・知③ 行動観察 ノート分析		
	6	2位数×1位数(十の位の数と部分積が2桁、及び部分積がみな2桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	○知②③ ノート分析		6	除数に着目して、2位数÷2位数の筆算で、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。	○思② 行動観察 ノート分析		
の3 数け をた かの け数 に 計1 算け 算け た	7	2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	○知②③ ノート分析		7	3位数÷2位数=1位数の筆算の仮商のたて方を2位数÷2位数の筆算の仕方を基にして考え、説明することができる。	○知③ 行動観察 ノート分析	・思② ノート分析	
	8	3位数×1位数(部分積がみな1桁)の筆算の仕方について、2位数×1位数の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。	○知② ノート分析	・思③ 行動観察 ノート分析	8	3位数÷2位数=2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	○思② 行動観察 ノート分析	○思② 行動観察 ノート分析	
の3 数け をた かの け数 に 計1 算け 算け た	9	3位数×1位数(部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)の筆算の仕方について、既習の乗法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。	○思③ 行動観察 ノート分析	○態② 行動観察 ノート分析	9	2位数÷1位数=2位数の筆算の仕方を、既習の3位数÷2位数の筆算をすることができ	○知③ 行動観察 ノート分析		
	10	3つの数の乗法が1つの式に表せることを知り、乗法の結合法則について理解する。	○知④ 行動観察 ノート分析		10	商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。	・知③ ノート分析	○思② 行動観察 ノート分析	
ま と め	11	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り、価値づける。	○知③ ノート分析	○思④ 行動観察	11	除法の性質について理解する。	・思③ ノート分析	○態② 行動観察 ノート分析	
の3 数け をた かの け数 に 計1 算け 算け た	12				12	末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方を既習の除法の計算の仕方を基に考え、説明することができる。	○知④ ノート分析	○思③ 行動観察 ノート分析	
	13				13	学習内容を適用して問題を解決する。	○知③ 行動観察 ノート分析		
ま と め	14				14	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	○思④ 行動観察	○態③ 行動観察 ノート分析	

VII 本時の指導

(1) 本時のねらい

		第3学年		第4学年		
		第3学年 (3/11)		第4学年 (3/14)		
段階	指導上の留意点	形 態	児童の反応	指導上の留意点	段階	
	<p>第3学年</p> <p>2位数×1位数(部分積がみな1桁)の筆算の仕方について理解し、説明することができる。</p> <p>余りのある2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p>					
	<p>第4学年</p> <p>2位数×1位数(部分積がみな1桁)の筆算の仕方について理解し、説明することができる。</p> <p>余りのある2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p>					
つかむ10	<ul style="list-style-type: none"> 教科リレーダーに進めさせる。 前時までの問題との違いを考えながら、この問題を読ませる。 分かっていること、求めていることを確認させる。 これまでとの問題の違いを確認させる。 数直線図を書き、立式させる。図がうまく書けない場合はこれまでのノートを見たり、友達のところに行き相談させたりする。 	間 接 5	<p>1 問題の把握</p> <p>○問題を読み、題意をとらえる。</p> <p>④1まい23円の色面用紙を、3まい買います。代金はいくらですか。</p> <p>○前時までの問題との違いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1枚20円から23円になっている。 1の位の計算をしなければいけない。 <p>○数直線図を書き、立式する。</p>	<p>1 問題の把握</p> <p>○問題を読み、題意をとらえる。</p> <p>④87÷21の筆算をしましょう。</p> <p>2 課題の把握</p> <p>⑥わりきれないときの筆算のしかたを考えよう。</p> <p>3 見通し</p> <p>○問題から式を立て、筆算をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 余りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの問題との違いを考えながら、この問題を読ませる。 問題文の式から余りが出そうなことに気付かせ課題につなげる。 実際に立式させ、筆算をすることにより、「前時は余りがなかったが、本時の問題では余りがでる」とに気付かせ、課題意識をより明確にさせる。 	つかむ5
つかむ10	<ul style="list-style-type: none"> 数直線図を黒板に書かせ、その図をもとに、立式の意味を考えさせる。 立式の意味を児童の言葉で説明させるようにする。 立式から、本時の課題につなげるようにする。 求めることが1あたり20円から、23円に変わっていることについても確認し、課題意識をより明確にさせる。 前時までの問題と比較することによって、本時の学習課題を明確にさせる。 前時までのように、アレイ図とお金を使って考えと答えが出そうだというようにすることに気付かせる。 	直 接 5	<p>○立式を考える。</p> <p>2 課題の把握</p> <p>④23×3の計算のしかたを考えよう。</p>	<p>4 自力解決</p> <p>○「87÷21」の筆算の方法を考え、ノートにその筆算を書き。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆算の仕方は基本的に個人で考えるが、困った時には相談しながら考えてよいことを伝えておく。 筆算が終わった児童には、その筆算の意味を図に書き、筆算の仕方が正しいかどうかを確かめさせる。 	つかむ10
しるべ	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決で求め方が分かった児童は、自力解決が終わっている児童を探し、考えを交流させる。 数や式と図を結びつけながら説明できるようにする。 アレイ図やお金を使って考えさせるだけでなく、可能な児童には式だけで答えを求めさせるようにする。 自分の考えを交流する児童は、自分の考えを説明するだけでなく、友達の考えの図と計算の仕方を結びつけながら聞くようにする。 	間 接 10	<p>4 自力解決</p> <p>○アレイ図かお金を使って答えの求め方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 20×3をして60、3×3をして9、合わせて69になるので、答えは69円になる。 	<p>5 比較検討</p> <p>○代表児童の考えが正しいかどうか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 87÷21はわる数21を20と見ると、商は4ぐらいになりそうです。21×4をすると1×4=4、20×4=80なので、87の下に84と書きます。87から84を引いて3、答え4あまり3になります。 <p>○図を使って考えの正しさを確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 代表児童の自分の考えを黒板に書いてもらい、その筆算をもとに児童の考えを交流する。 代表児童には最初に説明をさせず、他の児童に説明させることにより、考えを深める。 筆算の仕方について、実際に書いた筆算をもとに説明させる。 筆算の仕方を、実際に書いた筆算方法と結びつけながら聞くようにさせる。 図を児童が書いていた場合には児童の図を使って説明させ、児童が書いていなかった場合には、指導者が黒板に書きながら児童と一緒に考えるようにする。 図と筆算とを結びつけて、筆算の計算方法の理由が明確になるように説明させる。 図と筆算とを結びつけながら、筆算の計算方法の理由を聞くようにさせる。 	しるべ10

ま と め る 5	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えを黒板に書かせ、その考えを他の児童に説明させる。 ・説明が途中でできなくなかった児童がいた場合は、違う児童を指名し、続きを説明させるようにする。 ・説明ができていない児童は、最後に指名し、分かっているかどうかを確認する。 ・図と式を結びつけながら話す。 ・図と式を結びつけながら聞く。 ・自分の考えと相手の考えを比べながら聞き、答えの求め方の根拠を明確にさせる。 ・アレイ図もお金でも数式だけでも答えが同じになることに気付かせ、子供達の考えを深められるようにする。 ・$2 \times 3 \times 3$はこれまで学習したことを生かし、2×3と3×3をしてその答えを合わせれば出ることを確認する。 ・アレイ図、お金、数式それぞれによさがあるので、そのよさについて交流させる。アレイ図は数がはつきりしている、お金は具体的である、数式は速いということに気付かせたい。 		直接 20	<p>○検算を行い、計算の正しさを確かめる。</p> <p>6 学習のまとめ ④あまりのあるわり算も筆算のしかたは同じになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の筆算（余りが無い）と今回の筆算（余りがある）でも同じようにできることに気付かせる。前時の筆算の方法と今回の筆算では余りが無いと余りがあるのに違いはあるが、方法は変わらないことに気付かせ、児童の考えを深めるようにする。 ・検算の仕方にまだ慣れていないので、指導者と一緒に考えるようにする。
ま と め る 5	<p>5 比較検討</p> <p>○代表児童の考えをもとに、どうやって答えを求めたのかを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$2 \times 3 \times 3$はできなけれど、20×3と3×3に分ければ計算できます。20×3は20のまとまりが3つあるので60になります。3×3は3のまとまりが3つあるので9になります。合わせて69になります。だから答えは69円です。 <p>○答えの求め方について、対話により、自分の考えが深まったことを確認する。</p> <p>○それぞれの考え方のよさについて確認する。</p>	<p>6 学習のまとめ</p> <p>④位ごとに分けて計算すれば、23×3のような計算も九九を使って答えをもとめることができる。</p>	間 接 20	<p>7 評価問題</p> <p>○教科書101ページの2・3を解く。</p> <p>○答え合わせをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめまででできるだけ早く終わらせ、問題を解く時間を確保できるようにする。 ・2の問題は、理由を簡単に文章として書かせる。 ・3の問題は筆算を正確に行わせる。 ・教科リーダーが中心となり答え合わせを行わせる。 ・児童に黒板に書かせたり、説明させたりしながら答えを確認する。 <p>た し か め る 20</p>
ま と め る 5	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の言葉をうまく拾ってまとめにつなげるようにする。 	<p>7 振り返り</p> <p>○進んで学習ができたか、積極的に自分の考えを伝えられたか、友達の話をつっかり聞くことができたかなどを振り返る。</p> <p>○感想を発表する。</p>	共 通 5	<p>8 振り返り</p> <p>○進んで学習ができたか、積極的に自分の考えを伝えられたか、友達の話をつっかり聞くことができたかなどを振り返る。</p> <p>○感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あてはまる」「どちらか」とあてはまる「あまりありあてはまらない」「あてはまらない」の4段階で自己評価させる。 ・振り返りの視点をもとに感想を書き、その感想を発表させることで、学習内容の振り返りと次時への意欲につなげる。 ・かけられる数が2×3のようになっても、これまでと同じように位で九九をすれば答えが求められることにも触れさせたい。 <p>ふ り か え る 5</p>

算数 5・6年

花巻市立笹間第二小学校 令和4年8月26日(金)

第5学年
形も大きさも同じ図形を調べよう
(東京書籍「新しい算数5上」P77~79)

第6学年
形が同じで大きさがちがう図形を調べよう
(東京書籍「新しい算数6」P96)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○デジタルコンテンツを間接指導に生かしたICT活用

5年生が合同な三角形のかき方を考える場面で、間接指導の際に、教科書に紹介されているデジタルコンテンツを使用しました。まず、児童は自力解決で自分の見方・考え方を働かせて三角形の構成の仕方を考えました。それから、1人1台端末でデジタルコンテンツにつなぎ、自分の考え方以外のかき方を見つけ、自分のノートにかいていました。間接指導でしたが、授業者は「教科書でいうと、だれの考え方?」「説明しながらかいてみよう」などと声をかけたり、端末操作の支援をしたりしながら、見守っています。



少人数での学習で、多様な考えを生み出すのは難しい面があります。しかし、本時では、5年生の児童は自分の考えを表現しつつ、デジタルコンテンツを活用することで新たな考えに気付きました。また、児童が動画で視覚的に捉えた新たな考えを、直接指導では授業者が支援しながら児童に説明させました。言語化することで三角形の構成要素に着目することとなり、思考を深めることにつながります。授業場面に合ったデジタル教材の適切な活用により、児童の資質・能力を育てることにつながります。

○学習内容の系統性を意識させる見通し、振り返りの場面

本時は、どちらの学年も「三角形の構成要素に着目し、図形のかき方を考える」場面でした。何が分かるか三角形がかけるとのか5・6年生児童と一緒に解決の見通しを考え、「角の大きさ」「辺の長さ」「角も辺も3つ」に着目することができました。

また、まとめる場面でもそれぞれの学習を振り返る中で、合同な三角形のかき方と三角形の拡大図のかき方について「同じきまりでかけそう?」と問いかけて共通点を検討しました。児童はそれぞれの学習内容は違うが、どちらも角や辺に着目して考えることで解決できることに気づき、まとめることができました。さらに、6年生の児童が「3年生の時に習ったかき方と同じ」と振り返るなど、学習内容の統合を図ることにもつながっていきました。



単元の指導と評価の計画を立てる際に、授業者は学習内容の系統性を踏まえ、学習効果を高める場面設定を検討することが大切です。特に、本時のように「教科特有の見方・考え方」を同じように働かせることができる場面で、児童は統合・発展的な考えをしやすくなります。毎時間、両学年が類似内容というわけにはいきませんが、カリキュラムマネジメントの視点から単元計画を立てることで、児童の見方・考え方がより鍛えられていきます。

第5・6学年 算数科学習指導案

令和4年8月26日(金) 14:20~15:05

児童 5学年 男1名 計1名

6学年 女1名 計1名

授業者 柵山 千恵

1 単元名・教材名

	5学年	6学年
単元名	合同な図形	拡大図と縮図
教材名	形も大きさも同じ図形を調べよう	形が同じで大きさがちがう図形を調べよう

2 指導計画

5学年

○目標

(1) 図形の形や大きさが決まる要素や合同の意味について理解することができる。

[知識及び技能]

(2) 図形を構成する要素や図形間の関係に着目して、合同な図形の性質を見出し、筋道を立てて考えたり説明したりすることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等]

(3) 合同の観点から既習の図形をとらえ直し、今後の生活や学習に活用しようとする。

[学びに向かう力, 人間性等]

○評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①図形の形や大きさが決まる要素や図形の合同について理解するとともに、合同な図形を弁別したりかいたりすることができる。	①図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、合同な図形の性質を見だし、筋道を立てて説明している。	①合同という観点で既習の図形の性質を見直したり、対角線に着目して合同な図形をとらえたりしたことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用したりしている。

○指導計画

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1	[プロローグ] 上p.72	①p.72 の写真を見て、ぴったり重なる理由についての話し合いを通して、形も大きさも同じ図形(合同な図形)を調べるとい単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
	・「合同」の意味について理解する。 上p.73~74	①与えられた三角形, 四角形と形も大きさも同じ図形を見つける。 ②用語「合同」の意味を知る。 ③四角形を裏返して重ね合わせることができるかどうかを調べる。	[知技] 合同の意味を理解し、合同な図形を調べることができる。 【観察・ノート】 [態度] 形や大きさが同じ図形に関心をもち、合同な図形の調べ方を工夫して考えようとしている。 【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
2	・頂点, 辺, 角について「対応する」の意味を知り, 合同な図形の性質について理解する。 上p.74~75	①合同な図形について, 重なり合う辺, 角, 頂点を調べる。 ②用語「対応する」の意味を知る。 ③合同な図形の性質をまとめ, それを用いて合同かどうかを判別する。	[知技] 合同な図形の性質について理解し, 合同な図形の対応する辺の長さや角の大きさを求めたり, 合同な図形を弁別したりすることができる。 【観察・ノート】 [思判表] 対応する辺の長さや角の大きさに着目して, 合同な図形の性質について考え, 説明している。 【観察・ノート】
3	・四角形を対角線で分割してできた三角形が合同であるかどうかを調べ, 既習の図形を合同の観点でとらえ直す。 上p.76	①台形や平行四辺形など, これまで学習した四角形を1本の対角線で分割すると, どのような三角形ができるか考える。 ②分割してできた三角形について, 合同であるかどうか調べる。 ③同じようにして, 2本の対角線で分割したときの三角形について, 合同であるかどうか調べる。 ④既習の四角形の中には, 合同な三角形を組み合わせてできた形があることをまとめる。	[思判表] 既習の四角形について, 対角線で分割した三角形を合同の観点で調べ, とらえ直している。 【観察・ノート】 [態度] 合同の学習を活用して, 既習の四角形の性質を調べようとしている。 【観察・ノート】
4 本時	・合同な三角形のかき方を三角形の構成要素に着目して考えることを通して, 合同な三角形のかき方を理解する。 上p.77~79	①三角形の構成要素に着目して, 合同な三角形のかき方を考える。 ②頂点Aの位置の決め方について考える。 ①二辺夾角, 二角夾辺, 三辺のかき方で合同な三角形をかく。 ②それぞれのかき方でどの辺や角を使っているかを整理し, すべての構成要素を使わなくても合同な三角形がかけられることをおさえる。 ③合同な三角形のかき方をまとめる。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技] 合同な三角形のかき方を理解し, 必要な構成要素を調べて合同な三角形をかくことができる。 【観察・ノート】 [思判表] 三角形の構成要素に着目し, 合同な三角形をかくために必要な構成要素を考え, 説明している。 【観察・ノート】
5 6	・合同な三角形のかき方を理解し, かくことができる。 上p.80	①練習問題に取り組む。 ②「ますりん通信」を読み, 二辺とその間がない角を使うと, 頂点が1つに決まらない場合があることを知る。	[知技] 合同な三角形をかくことができる。 【観察・ノート】
7	・合同な三角形のかき方を活用して, 合同な平行四辺形のかき方を考え, 説明することができる。 上p.81	①合同な三角形のかき方を基に, 合同な平行四辺形のかき方を考える。 ②三角形の場合と異なり, 4つの辺の長さだけでは, 形が決まらずかけないことを知る。 ③対角線で2つの三角形に分けると, 合同な平行四辺形をかくことができることをまとめる。	[知技] 平行四辺形を対角線で2つの三角形に分けて考え, 合同な平行四辺形をかくことができる。 【観察・ノート】 [思判表] 合同な三角形のかき方を基に図形の構成要素に着目して合同な平行四辺形のかき方を考え, 説明している。 【観察・ノート】
8	・学習内容の定着を確認するとともに, 数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.82~83	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技] 基本的な合同な図形の問題を解決することができる。 【観察・ノート】 [思判表] 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら, 単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 [態度] 単元の学習を振り返り, 価値づけたり今後の学習に生かそうとしたりしている。 【観察・ノート】
・【発展】巻末 p.144 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み, 学習内容を基に合同な図形についての理解を深める。			

6学年

○目標

(1) 拡大図, 縮図の意味や性質について理解することができる。

[知識及び技能]

(2) 図形を構成する要素や図形間の関係に着目して, 構成の仕方や図形の性質を見出すことができる。

[思考力, 判断力, 表現力等]

(3) 拡大図, 縮図という観点から多面的にとらえ考えたり, 数学のよさに気付いたりして, 今後の生活や学習に活用しようとする。

[学びに向かう力, 人間性等]

○評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 拡大図, 縮図の意味や性質を理解し, 対応する辺の長さや角の大きさを求めたり, 拡大図, 縮図をかいたりすることができる。	① 図形を構成する要素や図形間の関係に着目し, 合同の意味や比の考えをもとに, 拡大図, 縮図の意味や性質, 作図の仕方について考え説明し, 図形に対する見方を深めている。	① 既習の図形をとらえ直したことや数学的に表現・処理したことを振り返り, 多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり, 数学のよさに気付く学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

○指導計画

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1	[プロローグ] p.92	① p.92 の写真を提示し, 3つの映像の共通点や相違点についての話し合いを通して, 形が同じで大きさが違う図形を調べるといった単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
	・ 拡大図, 縮図の意味や性質について理解する。 p.93~95	① 方眼を用いてつくったいろいろな図形の中から, 形が同じとみることができるのはどれかを考える。 ② もとの図形と形が同じ図形について, 対応する辺の長さの比や角の大きさを調べる。 ③ 「拡大図」「縮図」の意味を知る。	[知技] 拡大図, 縮図の意味を理解し, 拡大図, 縮図の性質を基に, 拡大図や縮図を弁別したり, 対応する辺の長さや角の大きさを求めたりすることができる。 【観察・ノート】 [態度] 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し, 合同の意味を基に, 拡大図や縮図の意味や性質を考えようとしている。 【観察・ノート】
2		① 拡大図, 縮図の弁別をする。 ② 拡大図, 縮図の性質を確かめ, 対応する辺の長さや角の大きさを求める。	
3 本時	・ 辺の長さや角の大きさを用いた, 拡大図, 縮図のかき方を考え, 説明することができる。 p.96	① 1辺を基にした拡大図のかき方を考える。 ② 縮図をかく。 *デジタルコンテンツ設定有	[思判表] 拡大図, 縮図のかき方を, 合同な図形のかき方を基にして考え, 説明している。 【観察・ノート】
4	・ 1つの点を中心とした拡大図, 縮図のかき方を考え, 説明することができる。 p.97	① 1つの点を中心とした拡大図のかき方を考える。 ② 四角形に適用して拡大図や縮図をかく。	[知技] 1つの点を中心として, 拡大図, 縮図をかくことができる。 【観察・ノート】 [思判表] 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し, 1つの点を中心とした拡大図, 縮図のかき方を考え, 説明している。 【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
5	・おもな基本的な平面図形が拡大図、縮図の関係になっているかを調べることを通して、既習の図形に対する見方を深める。 p.98	①二等辺三角形、正三角形、長方形、正方形、平行四辺形、ひし形、正五角形、正六角形が、拡大図、縮図の関係になっているかを調べる。	[思判表] 拡大図、縮図という観点から、図形を分類整理したり性質を説明したりしている。 【観察・ノート】
6	・縮尺の意味について理解し、縮図から実際の長さを求めることができる。 p.99	①縮図の縮めた割合を求める。 ②「縮尺」の意味を知る。 ③縮尺の表し方をまとめる。	[知技] 縮尺の意味を理解し、縮図から実際の長さを求めることができる。 【観察・ノート】
7	・縮図をかいて、実際の長さを求めることができる。 p.100～101	①直接には長さをはかれない校舎の高さを求める方法を考える。 ②縮図をかいて実際の校舎の高さを求める。	[知技] 直接はかることのできない長さを、縮図をかいて求めることができる。 【観察・ノート】 [態度] 直接はかれない長さを求めるには、縮図を用いればよいことに気づき、用いようとしている。 【観察・ノート】
まとめ p.102～103, 262 時間			
8	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 p.102～103	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技] 基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 [思判表] 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 [態度] 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。 【観察・ノート】
・【発展】巻末 p.262 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組む、単元の学習内容を数学の世界で活用し、拡大図と縮図についての理解を深める。			

3 少人数を生かした指導について

どちらの学年も一人で学習する場面が多く、教えたり教えられたりする経験が少ない。本単元では、5学年が合同、6学年が拡大図、縮図ではあるものの、三角形の構成要素や図形間の関係に着目するという点で共通点がある。考える場面を共有することで、合同と拡大図、縮図という違いはあっても、三角形をかくために必要な条件は同じであることに気付くことができる。また5学年は、これからの学習への意欲を高め、6学年は、既習事項との関連を振り返りながら今後学習を進めることができる。

4 本時の指導 **5学年**(4時間目/全8時間) **6学年**(3時間目/全8時間)

(1) 目標

5学年 三角形の構成要素に着目して合同な三角形のかき方を考え、理解することができる。

6学年 三角形の構成要素に着目して拡大図、縮図のかき方を考え、説明することができる。

(2) 具体の評価規準

	評価の観点	児童への手立て
5学年	思・判・表 三角形の構成要素に着目して、合同な三角形のかき方を考え、理解している。	・三角形の構成要素をカードに表し、順番に並べることで、三角形のかき方を整理しやすくする。
6学年	思・判・表 三角形の構成要素に着目して、拡大図、縮図のかき方を考え、説明している。	・拡大図、縮図において、 ①対応する角の大きさが等しいこと ②対応する辺の長さの比が等しいことを確認させる。

(3) 研究主題との関わり

【視点 1】

「学習の見通し」「学習の振り返り」を充実させるための手立ての工夫

【視点 2】

複式指導(間接指導)を充実させる手立ての工夫

(4) 展開

5学年				6学年		
過程	学習内容と活動	留意点	形態	学習内容と活動	留意点	過程
つかむ	1 問題把握 三角形 ABC と合同な三角形のかき方を考えましょう。		直 直	1 問題把握 三角形 ABC を2倍に拡大した三角形 DEFをかきましょう。		つかむ
考える	2 課題把握 合同な三角形をかくためには、どれを使えばよいか考えよう。 3 見通しをつける ・3辺 ・2辺とその間の角 ・1辺とその両端の角 4 自力解決 ・三角形をかく ・使った構成要素を整理する。 5 確かめる ・教科書3人のかき方を整理する。	【視点1】 ・既習事項を確認してから取り組ませる。 【視点2】 ・タブレットを使い、3パターンの	間 間	2 課題把握 拡大図のかき方を考えよう。 3 見通しをつける ・3辺 ・2辺とその間の角 ・1辺とその両端の角 4 自力解決 ・合同な三角形のかき方をもとにしてかく。 ・使った構成要素を整理する。 5 確かめる ・拡大図のかき方を説明する。	【視点1】 ・既習事項を確認してから取り組ませる。 【評価】	考える

	①辺BC・角B・辺AB ②辺BC・角B・角A ③辺BC・辺AB・辺AC	かき方を確認する。 【評価】				
ま と め る	6 まとめる 辺の長さや角の大きさのうち3つを使うと合同な三角形をかきことができる。		直	直	6 まとめる 辺の長さや角の大きさのうち3つを使うと拡大図をかきことができる。	ま と め る
	7 練習問題を解く ・算数の力 37				7 練習問題を解く ・教科書 4	
	8 学習を振り返る ・本時で学んだことを書く。	【視点1】 ・既習事項をもとに新たな課題を解決できたことに気付かせる。	直	直	8 学習を振り返る ・本時で学んだことを書く。	【視点1】 ・既習事項をもとに新たな課題を解決できたことに気付かせる。

(5) 板書計画

5年

<p>問 三角形 ABC と合同な三角形をかきましょう。</p> <p>教科書の図</p> <p>【合同な図形】 対応する角の大きさ…等しい 対応する辺の長さ…等しい</p>	<p>課 合同な三角形をかくためには、どれを使えばよいか考えよう。</p> <p>教科書の図</p> <p>⑤ 辺の長さや角の大きさのうち3つを使うと合同な三角形をかきことができる。</p>
---	---

6年

<p>問 三角形 ABC を2倍に拡大した三角形 DEF をかきましょう。</p> <p>教科書の図</p> <p>【拡大図】 対応する角の大きさ…それぞれ等しい 対応する辺の長さ…比がどれも等しい</p>	<p>課 拡大図のかき方を考えよう。</p> <p>教科書の図</p> <p>⑤ 辺の長さや角の大きさのうち3つを使うと拡大図をかきことができる。</p>
---	---

算数 3・4年

遠野市立小友小学校 令和4年10月26日(水)

第3学年 数の表し方やしくみを
調べよう(小数)

(東京書籍「新しい算数3下」P13~15)

第4学年 小数のしくみを調べよう

(東京書籍「新しい算数4上」P88)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載
遠野市独自の様式を使用



○共通導入での異学年交流と学習の見通し

本時は、学習リーダーの進行による、前時の児童の振り返りの共有から始まりました。「4年生が教えてくれた」「4年生になったらやってみたい」「学習リーダーとして優しくしたい」といった情意面の交流によって、児童は複式学級のよさを感じ、今日も一緒に学んでいこうという意欲につながっていました。

学習内容についても、3年児童が「小数は整数と同じような…」、4年児童が「仕組みが同じ」とそれぞれの解決の見通しを交流し、どちらの学年も「小数と整数のしくみが同じなのかを考えていく」という共通の課題意識を明確にもって、粘り強く課題解決に向かっていきました。



複式学級では、お互いの学年の学習内容を共有できるということが強みです。それぞれの学習内容に向かうだけでなく、内容の関連付けや関わったよさを認め合うことがポイントになります。異学年でのコミュニケーションによって多様な考えに触れ、学級経営に結びつけることを大切にしたいものです。特に、この時間のように系統性がある内容の場面では、同じような教科特有の見方・考え方を働かせることになるので、一緒に学び合うことは統合・発展的な考え方を育てるチャンスとなります。

○チャレンジ問題を次時の課題設定に生かす

前時の学習で、児童は「小数は整数と仕組みが同じ」ことを生かして、たし算やひき算に取り組んでいます。その終末段階では本時の学習問題を「チャレンジ問題」として児童に提示し、



発展的に取り組ませていました。この単元で学んできた小数と整数の仕組みが同じことを生かせば、整数と同じような見方ができるだろうと児童は見通しをもつこととなります。

本時では、それぞれの児童がすでに課題意識や解決の見通しをもった状態で授業に臨み、解決の時間を十分に確保することにつながりました。



前時の終末にチャレンジ問題(次時の学習問題)を提示することで、板書を活用したり異学年で交流したりしながら、既習の問題と比較しやすくなります。児童は「算数・数学の学習過程のイメージ」(小学校学習指導要領解説算数編 P8 参照)のように、思考が回り続けることとなります。また、本校では自主的に予習をする児童が増えているそうです。全県共通取組である「家庭学習の内容の充実と習慣化」の改善にもつながります。



目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）

視点1「学習意欲の向上」	視点2「言語活動の充実」
<ul style="list-style-type: none"> 単元全体や単位時間の見通しをもち、学習経験から学習課題を見つけ、意欲的に学ぼうとしている。 授業で分かったことやできたことなどを振り返り、課題解決の達成感をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと友達のをくらべて聞こうとし、よりよい考えにたどりつこうとしている。 伝えたいことを明らかにし、相手に伝わるように書いたり伝えたりしている。
<p>【現時点での課題（授業者・学習者）】 3年</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の学習と本時の新しい学習内容を比較し学習課題を立てる力は付き始めている。 課題解決の達成感を筆記する児童は多いが、一部の児童において表情から学びの楽しさが窺えないことがある。 	<p>【現時点での課題（授業者・学習者）】 3年</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞くことはできるが、考えの根拠となる図と言葉と式が一致していないことに気付かないことがある。そのため、よりよい考えにたどりつかないことがある。 複式指導での学習過程のずれのため、学び合いの様子の見取りや適切な助言ができないことがある。
<p>【現時点での課題（授業者・学習者）】 4年</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の学習と本時の新しい学習内容を比較し学習課題を立てる力は付き始めている。 学習の取り組み方に個人差がある。 	<p>【現時点での課題（授業者・学習者）】 4年</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞くことはできるが、全員同じ考えが出てくることが多く、よりよい考えまでには至っていないことが多い。 問題解決のための考えの根拠を、言葉や式・図を指し示すが、適切に算数用語を使って説明することが苦手である 複式指導での学習過程のずれのため、学び合いの様子の見取りや適切な助言ができないことがある。



3・4学年 算数科 単元指導計画（1～4, 6, 7を抜粋）

令和4年10月26日（水）5時間目 授業者 渋谷 明 美

単元名 小数 （東京書籍 3年下） 3学年（6名）	単元名 小数のしくみを調べよう （東京書籍 4年上） 4学年（4名）
1 単元の目標 （何ができるようになるか）	
3 学年	4 学年
<p>〔知識及び技能〕</p> <p>○端数部分の大きさを表す際に小数を用いることや小数の仕組みについて理解し、それらを活用して1/10の位までの小数の加減法の計算をすることができる。（Aイ（1））</p>	<p>○1/100の位、1/1000の位の小数の表し方や仕組みについて理解し、それらを活用して加法や減法の計算をすることができる。（A（4）ウ）</p>
<p>〔思考力・判断力・表現力等〕</p> <p>○数の表現や数のまとまりに着目し、小数の記数法は整数の十進位取り記数法を拡張したものにとらえ、数の大小関係や加減法の計算について考え、説明できる。（Aイ（ア））</p>	<p>○1/10未満の数の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数の加法や減法の計算の仕方、数の相対的な大きさについて考え、説明できる。（A（4）イ）</p>
<p>〔学びに向かう力・人間性等〕</p> <p>○小数の意味や表し方、加減法の計算の仕方について、図や式などの数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。</p>	<p>○1/10未満の小数の表し方及び加法や減法の計算の仕方について、十進位取り記数法のよさや整数や小数の仕組みと関連づけて考えた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。</p>
2 単元で取り上げる「課題解決的な言語活動」 （何を通して育成するのか）	
<p>3年（数学的な活動：（1）エ） 問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現し伝え合う活動を通して、小数のしくみを考えさせる。</p>	<p>4年（数学的な活動：（1）ウ） 問題解決の過程や結果を、図、式などを用いて表現し伝え合う活動を通して、小数のしくみを考えさせる。</p>

3 単元の評価規準		(何が身に付いたか)	
3 学年		4 学年	
〔知識・技能〕	○端数部分の大きさを表す際に小数を用いることや小数の仕組みについて理解し、それらを活用して1/10の位までの小数の加減法の計算をしようとしている。(Aイ(1))	○1/100の位、1/1000の位の小数の表し方や仕組みについて理解し、それらを活用して加法や減法の計算をしようとしている。(A(4)ウ)	
〔思考・判断・表現〕	○数の表現や数のまとまりに着目し、小数の記数法は整数の十進位取り記数法を拡張したものにとらえ、数の大小関係や加減法の計算について考え、説明している。(Aイ(ア))	○1/10未満の数の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数の加法や減法の計算の仕方、数の相対的な大きさについて考え、説明している。(A(4)イ)	
〔主体的に学習に取り組む態度〕	○小数の意味や表し方、加減法の計算の仕方について、図や式などの数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。	○1/10未満の小数の表し方及び加法や減法の計算の仕方について、十進位取り記数法のよさや整数や小数の仕組みと関連づけて考えた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。	
4 「2つの視点」+αによる授業改善		(どのように学ぶか)	
視点1	<p>「学習意欲の向上」3年</p> <p>① 導入場面において、複式のメリットを生かすために共通導入を行い、復習したり予習したり共通事項を見つけたりし、異学年同単元同内容の学習を行う楽しさを味わわせ、学習意欲の向上・持続を図る。</p> <p>② 学習を振り返る場面において、達成感・成就感を持たせるために、評価の観点に合った「評価問題」を解かせ、教師が採点し称賛する。</p> <p>③ 振り返りで学習感想を書く場面においては、自己の学びの感想を記録するだけでなく、異学年同単元同内容の学習の感想も紹介させ、学びが継続・発展していくことにも触れさせる。</p>	<p>「学習意欲の向上」4年</p> <p>① 導入場面において、複式のメリットを生かすために共通導入を行い、復習したり共通事項を見つけたりし異学年同単元同内容の学習を行う楽しさを味わわせ、学習意欲の向上・持続を図る。</p> <p>② 学習を振り返る場面において、達成感・成就感を持たせるために、評価の観点に合った「評価問題」を解かせ、教師が採点し称賛する。</p> <p>③ 振り返りで学習感想を書く場面においては、自己の学びの感想を記録するだけでなく、異学年同単元同内容の学習の感想も紹介させ、学びが継続・発展していくことにも触れさせる。</p>	
視点2	<p>「言語活動の充実」</p> <p>① 学びの場面において、協働的な学習や数学的な見方・考え方ができるようにするために、友達の考えが図・言葉・式のどこにあたるのか、指し示したり説明したりする。</p>	<p>「言語活動の充実」</p> <p>① 学び合いの場面において、協働的な学習や数学的な見方・考え方ができるようにするために、教科書のモデルをクラスメイトの一員としてとらえさせ、多様な考えに触れたり代理説明させたりする。</p>	
本校の+α	<p>「リーダー学習」</p> <p>間接指導時の学習進行役として、</p> <p>①どこが同じでどこが違うのかを色分けをしたり</p> <p>②考えを集約したりし</p> <p>③協働的な学びの足跡を残す。</p>	<p>「リーダー学習」</p> <p>間接指導時の学習進行役として、</p> <p>①どこが同じでどこが違うのかを色分けをしたり</p> <p>②考えを集約したりし</p> <p>③協働的な学びの足跡を残す。</p>	

6 本時の展開						
第3学年 (10/12時間目)			第4学年 (11/13時間目)			
指導上の留意点	学習内容	段階	形態	段階	学習内容	指導上の留意点
<p>[視点1：①] 導入場面において、複式のメリットを生かすために共通導入を行い、復習したり予習したり共通事項を見つけたりし、異学年同単元同内容の学習を行う楽しさを味わわせ、学習意欲の向上・持続を図る。</p>	1 問題を把握する。				1 問題を把握する。	<p>[視点1：①] 導入場面において、複式のメリットを生かすために共通導入を行い、復習したり共通事項を見つけたりし異学年同単元同内容の学習を行う楽しさを味わわせ、学習意欲の向上・持続を図る。</p>
	<p>【共通】それぞれの学年の数直線を見比べましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>(教科書の図)</p> <p>小数 2.8 はどのような数でしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>(教科書の図)</p> <p>小数 3.45 はどのような数でしょうか。</p> </div> </div>					
	2 課題を設定する。	導入 (6分)	導入 (6分)		2 課題を設定する。	
<p>小数 2.8 について <u>整数と同じようにいろいろな見方ができるか</u>を考えよう。</p>						<p>小数 3.45 も <u>整数と同じようにいろいろな見方ができるか</u>を考えよう。</p>
<p>○整数 280 の数直線を掲示し、小数 2.8 の数直線と比較しやすいようにする。</p> <p>・既習事項から整数と小数が似ていた事項を想起させ、まとめがどうなるのか予想させる。</p> <p>・図・言葉・式がつながるようにしていく。</p>	3 見通しを持つ。	展開	展開		3 見通しを持つ。	<p>○まとめの予想をさせそのためにどんな課題解決の方法があるのか発言させる。</p>
	<p>○どんなまとめになるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整数と同じ仕組みになる。 <p>○どんな活動で考えればよいのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数直線を使って <u>数を合わせる</u>、<u>もとにした数を集める</u>、<u>位ごとに分けてたす</u>。 ・<u>ある数から引く (～より少ない)</u> 					
	4 自力解決をする。	展開	展開		4 自力解決をする。	<p>・下記4人の考えに数字を入れ、3.45の多様な見方について考え根拠となる説明を考えさせる。</p>
<p><u>合わせた</u> <u>ある数から引く (～より少ない)</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">(教科書の図)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">(教科書の図)</div> </div> <p><u>位ごとに分けてたした</u> <u>もとにした数を集めた</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">(教科書の図)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">(教科書の図)</div> </div>	<p>○あみ はると みさきりくの考えに数字を入れ、考えの根拠となる説明を考えましょう。</p>				<p>(教科書の図)</p>	
	4 自力解決をする。				4 自力解決をする。	
	○小数 2.8 を 280 のようにいろいろな見方で考えましょう。				○小数 2.8 を 280 のようにいろいろな見方で考えましょう。	
	(教科書の図)				(教科書の図)	

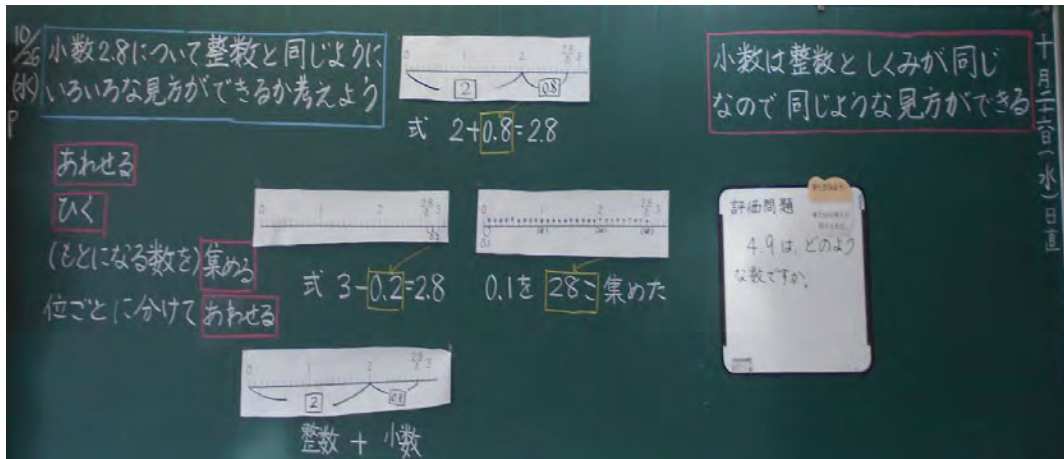
<p>・自力解決した内容を、別に児童が説明をする。</p> <p>① 数直線 ② 言葉 ③ 式（または位取り表）</p> <p>・あわせる</p> <p>・整数から小数をひく</p> <p>・位の中に整数や小数をあてはめる</p> <p>・もとになる小数を集める</p> <p>・整数と小数をたす</p>	<p>5 学び合いをする。</p> <p>(教科書の図)</p> <p>①数直線0～2までと、2～2.8までのところに区切られています。 ②合わせると2.8です。 ③2.8 = 2 + 0.8です。</p> <p>(教科書の図)</p> <p>①②数直線の3はこです。2.8は3より0.2少ないです。 ③2.8 = 3 - 0.2です。</p> <p>(教科書の図)</p> <p>①ここに0.1があります。2.8はこです。 ②2と(0.1を8こ)集めた数です。 ③位取り表で考えるとこうなります。</p> <p>(教科書の図)</p> <p>①数直線は2と0.8に分かれてくっついています。 ②一の位の数字と小数第1位に分かれています。 ③2.8 = 2 + 0.8です。</p> <p>◎小数2.8の作り方と整数280の作り方を比べましょう。 ・小数の作り方は、整数の仕組みと同じだった。 ・数は1と0.1で違うけれど、集め方が同じだった。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p> <p>小数は整数としくみが同じなので同じような見方ができる。</p> <p>7 練習問題を解く。 (評価問題を兼ねる)</p> <p>4.9 はどのような数ですか。</p>	<p>展開 (25分)</p> <p>展開 (30分)</p> <p>終末 (9分)</p> <p>終末 (14分)</p>	<p>5 学び合いをする。</p> <p>(教科書の図)</p> <p>答え 0.45 式 3 + 0.45 = 3.45</p> <p>(教科書の図)</p> <p>答え 0.05 式 3.5 - 0.05 = 3.45</p> <p>(教科書の図)</p> <p>考え</p> <p>1を 3 → 3 0.1を 4 → 0.4 0.01を 5 → 0.05 合わせて 3.45</p> <p>(教科書の図)</p> <p>式 0.01 × 345 = 3.45 ?</p> <p>◎整数の見方と似ているところはどこですか。 ・たす・ひく等、式の立て方が整数と同じだった。 ・もとになる数の集め方が整数と同じだった。 ・数直線の使い方が整数と同じだった。 ◎式のよさは何でしょう。 ・言葉や図を描かなくても考えが分かる。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p> <p>小数と整数は仕組みが同じだから同じ見方ができる。式に表すとどんな見方をしたのか分かる。</p> <p>7 練習問題を解く。</p>	<p>・単なる答え合わせでなく、答え⇒数直線への書き込み⇒どの考えなのかをリレーのようにつなぎ、学び合いを行わせる。</p> <p>◆あわせた～整数と小数のたし算 整数でも同じしくみ</p> <p>◆より小さい～ひき算 整数でも同じしくみ</p> <p>◆位ごとに分けてあわせた～たし算 整数でも同じしくみ</p> <p>◆もとになる小数を集めた～かけ算？ ・0.01 × 345は未習であるが、1つ分が集まってという考えを大切にしたい。 整数でも同じしくみ</p> <p>【視点2：①】 学びの場面において、協働的な学習や数学的な見方・考え方ができるようにするために、友達の考えが図・言葉・式のどこにあたるのか、指し示したり説明したりする。</p> <p>【知・技】 ・小数で表された数を多様な見方を用いて表したり、とらえたりすることができる。[観察・ノート] ・評価問題を兼ねる。</p> <p>(下線部 評価問題)</p>
--	--	--	---	--

<p>【視点1：②】 学習を振り返る場面において、達成感・成就感を持たせるために、評価の観点に合った「評価問題」を解かせ、教師が採点し称賛する。</p>	<p>8 学習の振り返る。 (1) 学習の振り返りを書く。</p>	間 接	<p style="text-align: center;">(☒)</p> <p>① から⑥までの問題を解き、答えに↑を書き入れましょう。</p> <p>① 5と0.65を合わせた数 5.65</p> <p>② 6より0.03小さい数 5.93</p> <p>③ 5.5より0.02大きい数</p> <p>④ 1を5こ、0.1を1こ、0.01を4こ 合わせた数 5.14</p> <p>⑤ 0.01を586こ集めた数 5.86</p> <p>⑥ 0.01を540こ集めた数 5.4</p>	
<p>・小数の見方は、1つだけでなく、たしたりひいたりして作ることが分かった。 ・数直線と言葉をつなげることは難しいと思ったけれど、すらすらいえるようになりたいので、勉強をがんばりたい。 ・小数と整数は同じように考えればよいと思った。 ・自分でたくさん考えられなかったけれど○さんの説明で分かった。 ・小数の勉強は4年生になっても続くので、今日の学習を忘れないでおきたい。</p>	<p>(2) チャレンジ問題を解く。</p>		<p>8 学習をふりかえる。 (1) 学習の振り返りを書く。</p>	<p>【視点1：②】 学習を振り返る場面において、達成感・成就感を持たせるために、評価の観点に合った「評価問題」を解かせ、教師が採点し称賛する。</p>
<p>P18「いかしてみよう」を考える。</p>			<p>・小数のしくみと整数のしくみが同じ見方だと分かった。 ・0.01を集めた数をまちがえやすかったけれど、○君が書いた位の表を使えばまちがえにくいと思った。 ・3年生も同じような問題だったので、何年生になっても小数の勉強は続いていくのだと思った。</p>	
<p>【視点1：③】 振り返りで学習感想を書く場面においては、自己の学びの感想を記録するだけでなく、異学年同単元同内容の学習の感想も紹介させ、学びが継続・発展していくことにも触れさせる。</p>			<p>(2) チャレンジ問題を解く。</p> <p>P89「いかしてみよう」を考える。</p>	<p>【視点1：③】 振り返りで学習感想を書く場面においては、自己の学びの感想を記録するだけでなく、異学年同単元同内容の学習の感想も紹介させ、学びが継続・発展していくことにも触れさせる。</p>
<p>【態度】 ・主体的、対話的に問題解決に取り組むとともに、小数の仕組みや数の構成を活用して問題解決したことを振り返り、価値づけている。 [観察・ノート]</p>			<p>【態度】 ・数学的表現を用いて、小数を多様な見方で表したりとらえたりしたことを振り返り、学習に生かそうとしている。[観察・ノート]</p>	

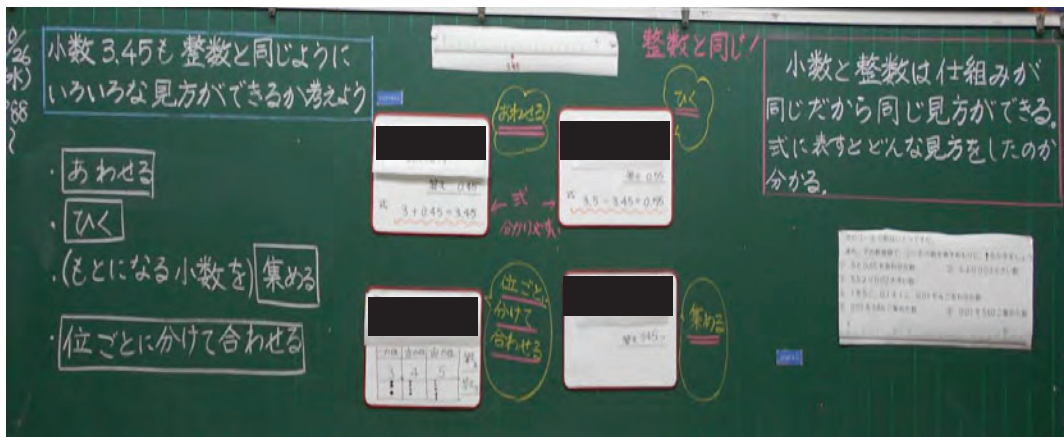
7 板書計画等

(学びの可視化をどうデザインするか)

【3 学年】



【4 学年】



C A

指す授業像 (本学区では、共通してどんな授業を目指すのか)

視点1 「学習意欲の向上」	視点2 「言語活動の充実」
<ul style="list-style-type: none"> 単元全体や単位時間の見通しをもち、学習経験から学習課題を見つけ、意欲的に学ぼうとしている。 授業で分かったことやできたことなどを振り返り、課題解決の達成感をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと友達のをくらべて聞こうとし、よりよい考えにたどりつこうとしている。 伝えたいことを明らかにし、相手に伝わるように書いたり伝えたりしている。
【協議や助言の内容】	【協議や助言の内容】
【本単元を終えての成果 (授業者・学習者)】	【本単元を終えての成果 (授業者・学習者)】
【授業者所感・今後の実践に向けて】	

算数 3・4年

奥州市立黒石小学校 令和4年9月14日(水)

第3学年 わり算や分数を考えよう
(東京書籍「新しい算数3上」P114)

第4学年 わり算の筆算を考えよう
(東京書籍「新しい算数4上」P109)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○間接指導の充実

本実践では、学習内容の特性から、はじめに上学年が直接指導、下学年が間接指導をしています。

下学年の間接指導を充実させるために、本実践では「学習ガイド」を用いています。3年生の児童は「学習ガイド」を見ながら、 $60 \div 3$ の計算の仕方について、図や式や言葉を使ってノートに説明を書き、その後ペアで学び合っってホワイトボードに考えを書いています。その後、「学習ガイド」の指示のとおり、学習リーダーを中心に自分たちで考えを交流し、質問や感想を交流しています。

このように、「学習ガイド」を用いることで、今年度から複式学級の授業を経験した児童でも、間接指導の時間に何を行えばよいかのかが明確になり、学習活動を充実させることができます。



間接指導を充実させるためには、児童自身が主体的に「学び方」を選択し、課題について考えを深めることが大切です。したがって、1人1台端末、学習ガイド、学習プリント、学習ノート、教科書の手引き、図書・資料の活用、学習リーダーを中心とした学び合いなど、児童が多様な「学び方」のよさを実感できるように意図的に学習経験を累積することが大事になります。また、児童自身が「学び方」を選択できるように指示や示唆を与えるなど、自分たちの力で学習を進めることができるように、年間を見通して計画的に育てていくことが大事になります。

教師は、間接指導での「学び方」の種類と効果を知るとともに、どのような学びのときに効果的なのかという効果的場面を明らかにして、ねらいに合った「学ばせ方」を考えて授業を構想する必要があります。

○共通導入・共通終末を位置付けた指導

本実践では、学習内容の系統性を明らかにして共通部分に着目することによって、共通導入を可能にしています。

また、校内研究主題の手立て「数学的に表現することのよさを感じさせるための指導の工夫」に関わって、共通終末の場面で、板書の式をもとにしてそれぞれの学年の学習内容についての共通点や相違点について考える場を設けています。



共通導入のよさは、同じ学級にいる児童が、異学年の学習ではあるものの共に学びに向かっているという一体感を感じることができることです。

共通終末のよさは、学習内容のつながりを感じて考えを深めたり、上学年と下学年の児童が互いに認め合ったり、アドバイスをしたりすることができることです。

教師にとっても、共通導入・共通終末を構想することで、学習内容の系統性や本時だからこそ大事にしたいことが明確になり、シンプルで深い授業ができるようになります。

第3・4学年 算数科（複式）学習指導案

日時 令和4年9月14日（水）3校時

児童 3年生 6名 4年生 3名 計 9名

指導者 三好和枝

〔3年生〕

1 単元名

「10 わり算や分数を考えよう」

（大きい数のわり算、分数とわり算

東京書籍 3年下）

2 単元について

（1）教材について

本単元では、既習を踏まえ、簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方を考える。その際、被除数を10を基に捉えたり、位ごとに分けて計算したりすることで既習の乗法九九1回適用の除法計算に帰着させていく。また、既習の分数の意味に着目し、等分されたテープ図を基にしなが、80cmの $\frac{1}{4}$ の長さの求め方を考えることを通して、分数と除法を関係づけていく。

（2）児童について

（省略）

〔4年生〕

1 単元名

「6 わり算の筆算を考えよう」

（わり算の筆算(2)－わる数が2けた

東京書籍 4年上）

2 単元について

（1）教材について

本単元では、2～3位数÷2位数の計算ができるようにすることをねらいとしている。2位数でわる計算は、「商をたてる」段階での仮商の修正が必要となる場合には、格段に困難となるため、習熟にも相応の時間が必要となる。また、「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の4操作の手順を形式的に覚えるだけでなく、筆算の各段階の意味を十分に理解できるように、1位数でわる計算方法を児童が自ら生かし、2位数でわる筆算を工夫して考え出せるような指導の工夫がポイントとなる。

（2）児童について

（省略）

(3) 指導について

第1小単元では、数の構成に着目し、簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えていく。導入では、テープ図と数直線を合わせた図を基に、1人分はテープ図のどの部分にあたるかを確認しながら式を立てていく。また、分ける操作を振り返り、10を基に考えれば既習の乗法九九を1回適用してできる除法計算に帰着できることや、位ごとに分ければともに既習の除法計算に帰着できることをまとめていく。

第2小単元では、分数の意味に着目し、分数と除法の関係を考えていくとともに、 $1/4$ の大きさが異なる理由を、もとの大きさに着目して考えていく。「もとの長さが違うと、その $1/4$ の長さも違う」ことを、具体的な数値に基づいて理解させ、割合の素地を培っていきたい。また、ここでは、第2学年の「分数」の既習を基にしながら、「わり算($\div 4$)・分数($1/4$)」 \leftrightarrow 「かけ算($\times 4$)・整数倍(4倍)」が逆の考えになっていることを、具体的な計算を通して理解させていきたい。

(4) 研究主題に迫るための手立て

手立てア

数学的な表現を用いた学び合いのあり方の工夫

(ア)考えを表現させるための方法や手段の指導

- ・テープ図や数直線、式、言葉の活用などを通して、自分の考えを整理・表現させる。

(イ)考えを広げる交流のあり方

- ・ねらいをもって、お互いの考えを伝え合う活動を取り入れる。

手立てイ

数学的に表現することのよさを感じさせるための指導の工夫

(ア)単元計画・単位時間計画の工夫

- ・4年生のわり算の学習と関連させ、共通部分について捉えさせる。
- ・身につけさせたい用語等を位置づける。

(イ)学びを価値づけるための振り返りのあり方

- ・本時の目標に合わせ、振り返りの視点を与える。
- ・学び合いの姿を具体的に評価し、意欲につなげる。

(3) 指導について

第1小単元では、「何十でわる計算」に取り組むが、10を基にして考えると、既習の1、2位数 \div 1位数となり九九1回適用で解決できる計算に帰着することを理解させた上で、同じような場面で問いをもたせて次時へつなげていく。

第2小単元では、被除数と除数の数の構成に着目し、2~3位数 \div 2位数=1位数の筆算の仕方を考え、その理解と定着を図る。その際、除数だけでなく、被除数と除数の両方を丸める方法を紹介することで、自分の数感覚に合った方法を見つけることができるようにしていく。

第3小単元では、3位数 \div 2位数=2位数について、これまでの学習と関連させて、筆算の仕方を考えていく。その際、筆算形式の途中に出てくる数が何を表しているのかを、非形式の筆算によって確認させたい。

第4小単元では、除法の性質について考えていく。既習のわり算も、「被除数と除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても、商は変わらない。」という性質を使っていたことを振り返りながら価値づけ、第5学年の小数のわり算にもつなげていきたい。

(4) 研究主題に迫るための手立て

手立てア

数学的な表現を用いた学び合いのあり方の工夫

(ア)考えを表現させるための方法や手段の指導

- ・図や式、筆算、言葉の活用などを通して、自分の考えを整理・表現させる。

(イ)考えを広げる交流のあり方

- ・ねらいをもって、お互いの考えを伝え合う活動を取り入れる。

手立てイ

数学的に表現することのよさを感じさせるための指導の工夫

(ア)単元計画・単位時間計画の工夫

- ・3年生のわり算の学習と関連させ、共通部分について捉えさせる。
- ・身につけさせたい用語等を位置づける。

(イ)学びを価値づけるための振り返りのあり方

- ・本時の目標に合わせ、振り返りの視点を与える。
- ・学び合いの姿を具体的に評価し、意欲につなげる。

3 単元目標

- (1) 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方や分数と除法の関係について理解し、計算ができるようにする。

【知識及び技能】

- (2) 数学的表現を適切に活用して計算方法や問題場面における分数の意味について考える力を養う。【思考力・判断力・表現力等】

- (3) 既習の計算方法や分数を除法としてみた過程を振り返り、今後の生活や学習に生かそうとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元目標

- (1) 2～3位数を2位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにする。

【知識及び技能】

- (2) 数学的表現を適切に活用して計算をしたり計算の確かめをしたりする力を養う。

【思考力・判断力・表現力等】

- (3) 基本的な計算を基に考えた過程を振り返り今後の学習に生かそうとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

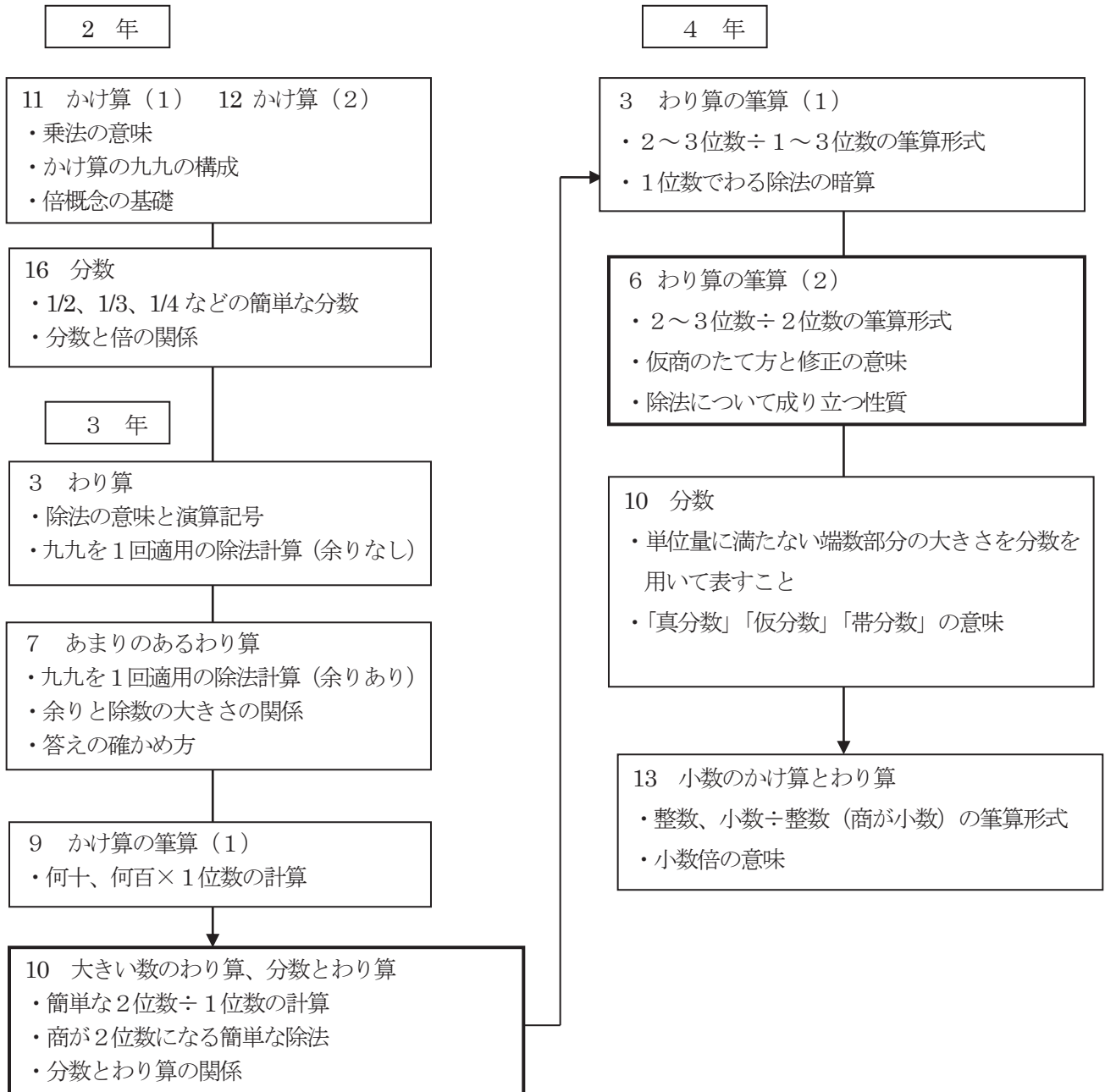
(3年)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。 ②除法と乗法や減法との関係について理解している。	①簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えている。 ②除法と乗法の逆算と捉え、除法の計算の仕方を考えている。	①自分が考えた除法の計算の仕方について、具体物や図と式を関連付けて考えようとしている。

(4年)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算が、基本的な計算を基にしてできていることを理解している。 ②除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の筆算の仕方について理解している。 ③除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算が確実にできる。 ④除法を用いる場合を知り、適切に用いることができる。 ⑤除法に関して成り立つ性質について理解している。	①除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算の仕方を考えている。 ②除法に関して成り立つ性質を見出し、その性質を活用して計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりしている。	①(何十)÷(何十)の計算を十を単位として考えれば一位数の計算として求められるというよさに気付いている。 ②除法に関して成り立つ性質を活用して、工夫して計算しようとしている。

5 単元の系統



6 単元指導計画

(3年 全4時間)

◆学び合い

●用語等

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
(1) 大きい数のわり算 2時間					
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 60÷3の計算の仕方を、既習の乗法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①◆60÷3の計算の仕方を、60を10の6こ分と捉えて既習の計算を使って考える。 ②問題演習に取り組む。 ●テープ図、数直線、言葉の式、もとにする 		<ul style="list-style-type: none"> ○思① (行動観察、ノート分析) 	

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
2	・ $69 \div 3$ の計算の仕方を、既習の乗法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。	①◆ $69 \div 3$ の計算の仕方を、69を60と9に分けて考える。 ②問題演習に取り組む。 ●位ごとに	○知① (行動観察、ノート分析)		・態① (行動観察、ノート分析)
(2) 分数とわり算 2時間					
3	・分数で表された数を除法の計算を用いて求めることができる。	①◆80cmの $\frac{1}{4}$ の長さの求め方を考える。 ②分数で表された数を除法を用いて表すことができることを知る。 ●等分、倍	○知② (行動観察、ノート分析)		
4	・もとの大きさが異なるものの等分した数について理解する。	①84cmや88cmの $\frac{1}{4}$ の長さを求める。 ②◆もとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さが異なる理由を考える。 ③もとの大きさと分数の関係をまとめる。 ●もとの大きさ		○思② (行動観察、ノート分析)	○態① (行動観察、ノート分析)

(4年 全14時間)

◆学び合い

●用語等

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
(1) 何十でわる計算 1時間					
1	[プロローグ] ・既習の四則の筆算の仕方を基に考え、何十でわる計算の仕方を理解し、説明することができる。	①既習の加減乗除の筆算について振り返り、除法で除数が大きくなっても筆算のできるのかという単元の課題を設定する。 ①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 ②◆ $60 \div 20$ の計算の仕方を考える。 ③ $60 \div 20$ の計算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。 ⑤ $90 \div 20$ の計算の仕方を考える。 ⑥計算練習をする。 ●たば、もとにする		・思① (行動観察、ノート分析)	・態① (行動観察、ノート分析)
(2) 2けたの数でわる筆算(1) 6時間					
2	・2位数 \div 2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 ②◆ $84 \div 21$ の筆算の仕方を考える。 ③除数を20(切り捨て)とみて、商の見当をつける。 ④ $84 \div 21$ の筆算の仕方をまとめる。 ⑤「ますりんつうしん」を読み、商の見当をつける際、被除数と除数の両方を概数にする方法があることを知る。 ●商、～とみる、見当、わられる数、わる数、たてる、かける、ひく		・思① (行動観察、ノート分析)	
3		① $87 \div 21$ の筆算をする。 ②◆ $87 \div 21$ の計算の検算をする。 ③計算練習をする。 ●けん算	○知① (行動観察、ノート分析)		

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
4	・2位数÷2位数の筆算で、過大商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。	①86÷23の筆算の仕方を考える。 ②除数を20(切り捨て)とみて、商の見当をつける。 ③◆過大商の場合の仮商修正1回の仕方を理解し、この型の計算練習をする。 ④81÷12の筆算の仕方を考える。 ⑤過大商の場合の仮商修正2回の仕方を理解し、この型の計算練習をする。 ●かりの商	・知② (行動観察、ノート分析)		・態① (行動観察、ノート分析)
5	・2位数÷2位数の筆算で、過小商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。	①78÷19の筆算の仕方を考える。 ②除数を20(切り上げ)とみて、商の見当をつける。 ③◆過小商の場合の仮商修正の仕方を理解し、この型の計算練習をする。	・知② (行動観察、ノート分析)		
6	・除数に着目して、2位数÷2位数の筆算で、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。	①87÷25の筆算の仕方を考える。 ②◆除数を切り捨てた(過大商)場合と、切り上げた(過小商)場合の筆算の仕方を比べる。 ③自分が仮商をたてやすい除数の処理の仕方を考える。 ④計算練習をする。	・知③ (行動観察、ノート分析)		○態① (行動観察、ノート分析)
7	・3位数÷2位数=1位数の筆算の仮商のたて方を2位数÷2位数の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。	①◆153÷24の筆算の仕方を考える。 ②計算練習をする。 ●商のたて方		○思① (行動観察、ノート分析)	
(3) 2けたの数でわる筆算(1)		3時間			
8	・3位数÷2位数=2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	①問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 ②◆345÷21の筆算の仕方を考える。 ③345÷21の筆算の仕方をまとめる。 ●たてる、かける、ひく、おろす	○知② (行動観察、ノート分析)		
9	・2位数÷1位数=2位数の筆算の仕方をういて、3位数÷2位数=2位数の筆算をすることができる。	①計算練習をする。 ②◆476÷15で、除数を切り捨てた(過大商)場合と、切り上げた(過小商)場合の筆算の仕方を比べる。	○知② (行動観察、ノート分析)		○態① (行動観察、ノート分析)
10	・商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。	①◆941÷23、960÷16の筆算の仕方を考える。 ②計算練習をする。 ③732÷216の筆算の仕方を考える。 ④216を200とみて、仮商をたてる。 ⑤計算練習をする。	○知③ (行動観察、ノート分析)	・思① (行動観察、ノート分析)	
(4) わり算のせいしつ		2時間			
11 本 時	・除法の性質について考え、説明することができる。	①◆商が等しいわり算の式を見比べて除法の性質について考える。 ②除法の性質をまとめる。 ●せいしつ、わられる数、わる数、商		・思② (行動観察、ノート分析)	

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
12	・末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方を既習の除法の計算の仕方を基に考え、説明することができる。	①◆ $24000 \div 500$ の筆算の仕方を考え、末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方をまとめる。 ② $2700 \div 400$ の筆算の仕方と、末尾に0のある数の除法での余りの求め方を考える。 ③末尾に0のある数の除法の筆算の仕方についてまとめる。 ●あまり		○思② (行動観察、ノート分析)	○態② (行動観察、ノート分析)
まとめ 2時間					
13	・学習内容を適用して問題を解決する。	①「たしかめよう」に取り組む。	○知③④ (行動観察、ノート分析)		
14	・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	①◆「つないでいこう算数の目」に取り組む。	○知⑤ (行動観察、ノート分析)	・思①② (行動観察、ノート分析)	

7 本時の指導 (3年…1/4時間 4年…11/14時間)

(1) 目標

【3年】 $60 \div 3$ の計算の仕方を、既習の乗法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。

【4年】除法の性質について考え、説明することができる。

(2) 本時における研究主題に迫る手立て

手立てア 数学的な表現を用いた学び合いのあり方の工夫

- ・3年生は図、式、言葉、4年生は式、言葉等を用いた学び合いを取り入れる。

手立てイ 数学的に表現することのよさを感じさせるための指導の工夫

- ・共通終末の場面で、板書の式をもとにしてそれぞれの学年の学習内容についての共通点や相違点について考える場を設ける。

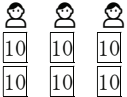
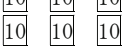
(3) 評価規準 (評価方法)

3年	4年
[思考・判断・表現] $60 \div 3$ の計算の仕方を、既習の乗法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明している。 (行動観察・ノート分析)	[思考・判断・表現] 除法の性質について考え、説明している。(行動観察・ノート分析)


3 年生		4 年生		
指導上の留意点	学習活動	段階・形態	学習活動	指導上の留意点
<p>・問題文を示し、問題を捉えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 60 まいの色紙を、3人で同じ数ずつ分けます。 1人分は何まいになりますか。 </div> <p>・テープ図と数直線を合わせた図、言葉の式を基にして、既習の除法と同じ仕組みであることを捉えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> ㊦ $60 \div 3$ の計算のしかたを考えよう。 </div>	<p>1 問題を捉え、学習課題をつかむ。</p> <p>・テープ図と数直線を合わせた図、言葉の式を基にして、立式する。</p> <p>●テープ図、数直線、言葉の式</p> <p>2 課題を把握する。</p>	<p>一斉</p> <p>8分</p> <p>つかむ</p>	<p>1 問題を捉え、学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> 商が等しいわり算の式どうしをくらべましょう。 </div> <p>・商が2になるわり算の式を見つける。</p> <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> ㊦ わり算に、どんなきまりがあるか調べよう。 </div>	<p>・問題文を示し、問題を捉えさせる。</p> <p>・例として、商が2になるわり算の式をくらべさせ、課題につなげる。</p>
<p>・色紙の図を基にして、考えさせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> 10 10 10 10 10 10 </div> <p>★色紙の図や言葉、式などを使って計算のしかたを説明させる。</p> <p>・既習の何十かける何の計算のしかたを想起させる。</p> <p>【評価】[思判表] $60 \div 3$ の計算の仕方、既習の乗法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明している。(行動観察・ノート分析)</p>	<p>3 課題解決の見通しをもつ。</p> <p>4 課題を解決する。</p> <p>・問題文にそって図をかいたり、言葉や式を使ったりして説明する。</p> <div style="margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">10 のたばで</p> <p style="text-align: center;"> 考えると $6 \div 3 = 2$ $60 \div 3 = 20$ 答え 20 まい </p> </div> <p>◆ペアで、計算のしかたについて説明し合う。</p> <p>◆全体で交流し、学び合う。</p>	<p>間接</p> <p>17分</p> <p>見通す</p> <p>考える</p> <p>考える</p> <p>まとめ</p>	<p>3 課題解決の見通しをもつ。</p> <p>4 課題を解決する。</p> <p>・商が4になるわり算を見つける。</p> <p>・わり算の性質について話し合う。</p> <p>◆全体で交流し、学び合う。</p> <p>・教科書のこうたとしほの考えを使って確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 教科書の図 </div> <p>5 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ㊦ わり算では、 ・わられる数とわる数に同じ数をかけても、商は変わらない。 ・わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わらない。 </div>	<p>・商が4になるわり算の式をいくつか見つけ、その式をくらべて性質を調べることを確認する。</p> <p>★まず個々でいくつか見つけさせ、わり算にはどんな性質があるか考えさせる。</p> <p>・全員で見つけた式を出し合い、被除数が小さい順に並べかえてから、わり算の性質について話し合わせる。</p> <p>●わられる数、わる数、商</p> <p>・性質という言葉について説明する。</p> <p>・既習の $60 \div 20$ の計算も、わり算の性質を使っていたことを確かめる。</p> <p>●せいしつ</p>

<p>5 まとめる。</p> <p>㊦ 10をもとにして考えればよい。</p> <p>★文章の型を示し、個人で文章問題を作って計算の仕方を取り組んだあとに、ペアで交流させる。</p> <p>・困ったときには、友達と学び合ってよいことを確認する。</p> <p>★図や式で、計算の仕方を説明させる。</p>	<p>●もとにする</p> <p>6 ◆適用問題を解く。</p> <p>80÷4の式になる文章問題を作り、その計算のしかたを説明しよう。</p>	<p>直接</p> <p>15分</p> <p>ま</p> <p>と</p> <p>め</p> <p>る</p> <p>深</p> <p>め</p> <p>る</p>	<p>間</p> <p>接</p> <p>15分</p> <p>深</p> <p>め</p> <p>る</p> <p>6 適用問題を解く。</p> <p><レベル1></p> <p>わり算のせいしつを使って、くふうして計算しましょう。</p> <p>① 210÷30</p> <p>② 90÷18</p> <p>③ 200÷25</p> <p><レベル2></p> <p>240÷80と商が等しい式はどれですか。</p> <p>㊦ 24÷8 ㊧ 240÷8</p> <p>㊨ 2400÷800 ㊩ 60÷2</p> <p>㊪ 120÷40 ㊫ 480÷160</p>	<p>★教科書P109のノートの記事例を参考にして、取り組ませる。</p> <p>★レベル1の記事の仕方を参考にして、理由も説明させる。</p> <p>【評価】[思判表] 除法の性質について考え、説明することができる。(行動観察・ノート分析)</p>
<p>・本時の学習を振り返り、学んだことを交流する。</p> <p>・板書を見ながら、両学年の共通点・相違点について考えさせ、内容のつながりについて捉えさせる。</p>	<p>7 学習を振り返る。</p> <p>・本時の学習を振り返り、4年生と交流する。</p> <p>8 次の学習を確認する。</p>	<p>一</p> <p>斉</p> <p>5</p> <p>分</p> <p>深</p> <p>め</p> <p>る</p>	<p>一</p> <p>斉</p> <p>5</p> <p>分</p> <p>深</p> <p>め</p> <p>る</p> <p>7 学習を振り返る。</p> <p>・本時の学習を振り返り、3年生と交流する。</p> <p>8 次の学習を確認する。</p>	<p>・本時の学習を振り返り、学んだことを交流する。</p> <p>・板書を見ながら、両学年の共通点・相違点について考えさせ、内容のつながりについて捉えさせる。</p>

8 板書計画
〔3年生〕

<p>問</p> <p>60まいの色紙を、3人で同じ数ずつ分けます。1人分は何まいになりますか。</p>	<p>㊦</p> <p>60÷3の計算のしかたを考えよう。</p>	<p>㊦</p> <p>10をもとにして考えればよい。</p>
<p>テープ図</p> <p>数直線図</p> <p>言葉の式</p>	<p>10のたばで考えると</p> <p> 6÷3=2</p> <p> 60÷3=20</p>	<p>㊨</p> <p>80÷4の式になる文章問題を作り、その計算のしかたを説明しよう。</p>
<p>式 60÷3</p>		

〔4年生〕

<p>問</p> <p>商が等しいわり算の式どうしをくらべましょう。</p>	<p>㊦</p> <p>わり算に、どんなきまりがあるか調べよう。</p>	<p>㊦わり算では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わられる数とわる数に同じ数をかけても、商は変わらない。 ・わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わらない。 	
<p>商が2になる式</p> <p>2÷1=2</p> <p>4÷2=2</p> <p>・</p> <p>商が4になる式</p> <p>4÷1=4</p> <p>8÷2=4</p> <p>・</p>	<p>教科書の図</p> 	<p>㊨わり算のせいしつを使って、くふうして計算しましょう。</p> <p>① 210÷30</p> <p>② 90÷18</p> <p>③ 200÷25</p>	<p>㊨240÷80と商が等しい式はどれですか。</p> <p>㊦ 24÷8 ㊧ 240÷8</p> <p>㊨ 2400÷800 ㊩ 60÷2</p> <p>㊪ 120÷40 ㊫ 480÷160</p>

算数 3・4年

陸前高田市立矢作小学校 令和4年6月24日(金)

第3学年 わり算を考えよう
(東京書籍「新しい算数3上」P75)

第4学年 わり算のしかたを考えよう
(東京書籍「新しい算数4上」P47)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○指導過程の工夫

単元の指導配列の工夫により、同単元類似内容指導を行った実践です。指導過程で「ずらし」を設定しないことで、同時直接指導（共通終末）と同時間接指導で展開することが可能となります。また、「導入⇒展開⇒終末」という通常の授業過程で進められることは、1単位時間の授業づくりがしやすくなり、評価の場面や振り返りの充実にもつながります。

同時間接指導は、授業者が柔軟に2つの学年を行き来できるため、学習の様子が見取りやすくなるとともに、学び合いでのつまずきに対する支援がスムーズに行えるなどのメリットがあります。



「ずらし」を設定しないということは、一方の学年を学習リーダーを中心に進めていく場面が多くなります。授業者としては不安な部分も多いですが、子どもたちが主体的に学習に取り組もうとする姿勢につながったり、対話的な学習活動の充実にもつながったりするチャンスと捉え、積極的に取り入れたいものです。

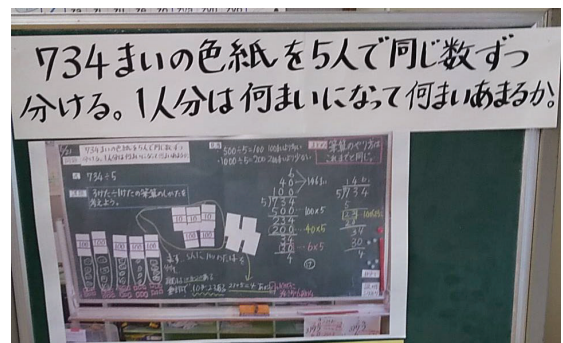
しかし、2つの学年の指導過程を同じくすることで、本時の山場が重なってしまうことも考えられます。単元指導計画を吟味し、「ずらし」の有無についても柔軟に検討することが必要です。

○既習内容の提示の工夫

少人数の複式学級では、1人在籍の学級もあり、他者の考えから既習事項とのつながりに気づいたりする場面がなく、間接指導の時間においても、自力で考えていくしかありません。

本実践では、前時に学習した板書を黒板脇に掲示し、間接指導の時間の手がかりとなる

よう工夫しています。他者がいない1人学級では、対話の相手は前時までの「自分」です。



系統性の高い算数科では、既習事項とのつながりについて考えることは非常に重要であり、数学的な見方・考え方を育成する上で大きなポイントとなります。上で紹介したように、前時の板書を提示しておくことは本時の手がかりになるとともに、これだけで見通しをもたせられるため、直接指導の短縮にもつながります。

自分で、ノートや教科書を開いたりしながら、必要な情報を拾い上げてくるような学びの姿も目指していきたいものです。タブレットに保存したものを利用するなど、ICTの活用も有効であると考えます。

第3・4学年 算数科学習指導案

令和4年6月24日（金） 2校時3・4年教室

3年生 男2名 女2名 計4名

4年生 男1名 計1名

指導者 佐藤 麗子

	第3学年	第4学年
1 単元名	あまりのあるわり算	わり算の筆算（1）－わる数が1けた
2 単元の目標	<p>◇わり切れない場合の除法や余りについて理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、除法の意味や計算の仕方を具体物や図、式を用いて表す力を養うとともに、問題場面における数量の関係に着目し、数学的に処理した過程をふり返り、今後の学習や生活に活用しようとする態度を養う。</p> <p>○知識・技能 わり切れない場合の除法の計算や余りと除数の大小関係について理解し、それらを活用して数量の関係をとらえることができる。</p> <p>○思考・判断・表現 数量の関係に着目し、わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合してとらえ、除法の意味や計算に成り立つ性質について考え、説明している。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度 日常生活の問題を解決した過程や得られた結果を吟味したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。</p>	<p>◇2～3位数を1位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、数量の関係に着目して、除法計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりする力を養うとともに、既習の基本的な計算を基に考えた過程をふり返り、今後の学習に生かそうとする態度を養う。</p> <p>○知識・技能 既習の乗法九九を1回用いて商を求める計算及び簡単な2位数を1位数でわる計算の方法を活用し、2～3位数÷1位数の計算をすることができる。</p> <p>○思考・判断・表現 数の見方や構成に着目し、計算の仕方を考え、説明している。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度 2～3位数÷1位数の除法の計算方法を、既習の基本的な計算を基に考えたことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。</p>
3 単元について	<p>本単元では、余りがないわり算との相違点に着目し、答えの見つけ方を考え、余りのある場合の除法の意味について理解する。また、問題場面や答えの求め方に着目し、余りのない場合の除法の計算方法と余りのある場合の除法の計算方法を統合的にとらえたり、余りと除数の大きさの関係や答えの確かめ方などを考え理解したりして、問題解決に生かそうとする態度を育てていく。</p>	<p>本単元では、被除数を2～3位数に拡張し、筆算形式を学習する。筆算形式の理解だけでなく、わり算の意味についても取り上げる。また、10や100の束の何個分かを考えながら問題解決にあたる。この学習を通して、除法計算が確実にでき、それを確実に用いることができるようにする中で、十進位取り記数法を基にした単位の考え、数感覚、数の見方を育てていく。</p>
4 児童の実態	(省略)	(省略)
5 指導にあたって	<p>本単元では、余りのある場合とない場合について、半具体物の操作や乗法九九を使った既習の計算方法を基に、どちらの場合も除法として統合的にみることができるようにさせたい。</p> <p>また、最大限に組ができたときの残りが「余り」であることを、おはじきや図での表現を活用しながら理解させたい。そして、余りは除数より小さくなっていることを見いださせ、除数と余りの大きさの関係をまとめていきたい。</p> <p>単元指導計画については、第3単元「わり算」の次に本単元を設定し、3年生と4年生で同じ除法の内容を学習できるようにしている。練習や習熟の段階で4年生に支援してもらうなど複式のよさを生かす活動を取り入れていきたい。</p> <p>学び合いについては、リーダーを中心に進め、お互いの考えについて意見を言い、話し合いが深まるようにさせていきたい。友達と考えが違っても話し合うことができるように、教師も話し合いの中に入り、コーディネートすることもしながら、納得がいくまで話し合うことのよさを味わわせていきたい。</p>	<p>本単元では、導入の何十、何百÷1位数の場面で、10や100を単位として考えているという単位の考えを大切に指導していきたい。</p> <p>はじめに10の束を分け、次に残った枚数を分けるという分け方が上位から計算するわり算の筆算形式に結びつく。筆算を形式的に指導するのではなく、大きい束から分けていく考えと筆算の手順を関連させて示していきたい。また、筆算の中に出てくる数が何を表しているかを理解させたい。そして、演算決定や見積りの際に数直線を用いて考えることを促していきたい。</p> <p>単元指導計画については、3年生と4年生で同じ除法の内容を選んでいく。3年生の内容と対応させながら、もう一度除法の意味を再確認できるようにしたい。</p> <p>自分の言葉で考えを説明するための方法について、使いこなしていくことができるよう、図をかかせたり、考えをノートに書かせたりして、慣れさせていきたい。また、10のまとまりなどイメージすることが苦手なので、図で確認しながら式と結びつけていきたい。</p>
6 本時の指導	1 / 7 (指導計画参照)	8 / 12 (指導計画参照)
(1) 目標	<p>除法と商が1位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を理解する。</p>	<p>3位数÷1位数＝2位数（首位に商がたたない）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p>
(2) 指導にあたって	<p>本時はプロローグと同様の問題場面であることから、既習の除法の考え方が使えそうであることを明確に示し、問題解決の見通しをもたせる。また、わり切れない場合であっても「分ける」という意味は変わらないことから、これまでの除法の式で表せば良いことを確認する。そして、余りのある除法でもわる数の段の九九が使えるのではないかと発見できるようにさせたい。</p> <p>おはじきの操作や図での表現を活用しながら、余りの意味についての理解を図りたい。学び合いでは、算数の用語を使って図と式を対応させて説明できるようにしたい。</p>	<p>本時は、問題場面の被除数を732から256に変えることで、首位の数が除数の4よりも小さい場合の計算をしていくことを確認する。</p> <p>色紙の束を表した図を用いて、児童が数をどのように見たのか、説明させる。その際に、「100の束のままでは4人に分けられないから」などの言葉を児童から引き出したり、内容を説明させたりすることで、筆算の仕方の説明をする手助けとしたい。25÷4がどんな場面を表しているのか、図と式を対応させながら理解できるようにしたい。</p>

(3) 評価 規準	具体的評価規準 (概ね満足できる)	努力を要すると判断される児童への支 援	具体的評価規準 (概ね満足できる)	努力を要すると判断される児童への 支援
	わりきれない場合の除法の計算の 仕方について、既習のわり切れる場 合の除法を基に考え、図や式を用い て説明している。	おはじきを使ったり図に表したりし て、3個ずつ分けて確かめさせる。	筆算のしかたについて、10のまと まりに着目して、具体物や式を用いて 筆算の仕方を考え、説明している。	図を参考に実際に分けていく手順 を基に考えるように指示する。

(4) 展開

第3学年		第4学年			
段階	評価【 】 指導上の留意点・ 学び合いでの留意点(下線)	学習活動 主発問○ 予想される児童の反応・ わたり	学習活動 主発問○ 予想される児童の反応・ 評価【 】 指導上の留意点・ 学び合いでの留意点(下線)	段階	
つ か む 8 分	<ul style="list-style-type: none"> おはじきを使った操作や、除数の 段の九九を使って答えを求めたこと を確認させる。 わり切れる場合と同じ場面である ことから、除法の式になるのではな いかと考えさせる。 問題、課題をノートに書かせる。 	<p>1 プロローグ</p> <p>既習の問題場面を繰り返す。</p> <p>1 2 ÷ 3 1 5 ÷ 3</p> <p>2 問題把握</p> <p>ゼリリーが14こあります。1人 に3こずつ分けると、何人に分 けられますか。</p> <p>○どんな式になりますか。</p> <p>・14 ÷ 3</p> <p>○今までのわり算とどこが違いますか。</p> <p>・かけ算九九に14がない。</p> <p>3 課題把握</p> <p>14 ÷ 3のようなわり算のしかた を考えよう。</p>	<p>1 問題把握</p> <p>2 5 6 まいの色紙を、4人で同 じ数ずつ分けます。1人分は何 まいになりますか。</p> <p>○どんな式になりますか。</p> <p>・256 ÷ 4</p> <p>○答えの見当をつけましょう。</p> <p>・240 ÷ 4 = 60 60まいより 多い。</p> <p>・280 ÷ 4 = 70 70まいより 少ない。</p> <p>○732 ÷ 4との違いは何ですか。</p> <p>・わられる数の百の位の数が変わる数 よりも小さい。</p> <p>3 課題把握</p> <p>○どんな課題にしますか。</p> <p>百の位の数が変わる数より小さい筆 算のしかたを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時とのつながりを意識させるこ とで、既習の方法を使えばできそう だという見通しをもたせる。 前時までの流れで一人で進めるこ とができるよう指示を黒板に提示し ておくなど工夫する。 数直線からも、答えは2けたにな ることを確認する。 2つの筆算の式を書いて、比較を 通して百の位に商がたつか考えさせ る。 	つ か む 10 分
見 通 す ・ 考 え る 10 分	<ul style="list-style-type: none"> 答えだけでなく、「どのように考え たのか」という根拠をノートに書く ように促す。【仮説3-②】 	<p>3 見通す</p> <p>○答えの見つけ方をおはじきや図、 式をつかって考えましょう。</p> <p>4 自力解決</p> <p>○答えを出してみましょう。 どうしてその答えになったか説明 しましょう。</p> <p>①おはじきや図</p> <p>3こずつ分けた。4人に分けると2 こあまる。</p> <p>(教科書の図)</p> <p>②かけ算</p> <p>3 × 4 = 12</p> <p>3 × 5 = 15 5人に分けると足り ない。</p>	<p>3 見通す</p> <p>○図を使って分ける方法を考えてみ ましょう。</p> <p>4 自力解決</p> <p>○答えを出してみましょう。 どうしてその答えになったか図や 言葉で説明しましょう。</p> <p>図</p> <p>100の束は2こしかないから、4 人には分けられない。だから、10 0のたばを10の束にばらして25 束にする。25 ÷ 4 = 6あまり1 残りの16まいを4人で分ける。</p> <p>(教科書の図)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時も大きな束から分けていたこ とを確認する。 100の束は2こしかないので4 人に分けられないことに気付かせ る。 答えだけでなく、「どのように考え たのか」という根拠をノートに書 くように促す。【仮説3-②】 操作過程を式で表すよう助言す る。 	見 通 す ・ 考 え る 10 分
深 め る 17 分	<ul style="list-style-type: none"> リーダーが話し合いを進める。 その際、<u>進行表を準備し、リーダー が主体的に進めることができるよう 手立てを取る。</u> 【仮説2-①、2-②】 【思・判・表】 わりきれない場合の除法の計算の仕 方について、既習のわり切れる場合 の除法を基に考え、図や式を用いて 説明している。(発言・ノート) リーダーに学び合ったことを発表 させる。 除法は分けきることや同じ数ずつ 分けるという処理を見直す。 式に書かれた数が図やおはじきの 	<p>5 リーダー中心に学び合い</p> <p>○なぜ「5人に分けられる」ではだ めなのですか。</p> <p>・5人目の人は2こだけなので、同 じ数の3こもらえないから。</p> <p>式表現について知る。</p> <p>○14このゼリリーを、1人に3こず</p>	<p>5 学びを伝える。</p> <p>○説明しましょう。</p> <p>6 筆算の仕方をまとめる。</p> <p>○図で考えたことをもとに筆算をや ってみましょう。</p> <p>百の位はわり算ができないから商は たたない。25 ÷ 4だとできるから</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>筆算の仕方について、10のまとま りに着目して、具体物や式を用いて 筆算の仕方を考え、説明している。 (発言・ノート)</p> <p>・100の束は2こしかないので、 10のたばにばらして25束にして 分けたことを確認する。</p>	深 め る 10 分

<p>どの部分にあたるのかを尋ね、式と図とを関連づけ、理解を深める。</p> <p>・自分たちで答え合わせをする。</p> <p>・あまりがある場合も、わる数のだんの九九を使って答えが出せることを確認する。</p>	<p>つ分けると4人に分けられて、2こあまる。このことを式で $14 \div 3 = 4$あまり2 と書く。 「わりきれぬ」「わりきれぬ」の用語について知る。</p> <p>6適用問題 ○ $27 \div 4$はわり切れるか、わりきれぬか図や言葉で説明してみましょう。答えも出しましょう。 ・4こずつ分けていくとあまりが出るからわりきれぬ。 $27 \div 4 = 6$あまり3</p> <p>7まとめ あまりがあるときも、わり算の式で表すことができる。答えを見つけるときは、これまでのわり算と同じようにわる数のだんの九九を使うことができる。</p>		<p>十の位に6をたてる。あとは今までと同じやり方でできる。</p> <p>7学びを伝える。 ○筆算のやりかたを説明しましょう。</p> <p>8まとめ わられる数のいちばん大きい位の数が、わる数より小さいときは次の位の数までふくめた数で計算を始める。</p> <p>筆算のしかたはこれまでと同じ。 ○けん算をしましょう。 $4 \times 64 = 256$</p>	<p>・筆算の2段目の24は10の束が24こあることを表していることを図と式をつなげて確認する。 ・百の位の2は4でわれないから、100をばらして10が25こみて計算したことを確認する。</p>	
<p>広げる 5分</p> <p>・自分たちで答え合わせをする。</p> <p>【知・技】 既習の除法の計算方法を用いて、わり切れない場合の除法についても計算することができる。(ノート)</p>	<p>8習熟問題 p 76△1 ②～④</p>		<p>9適用問題 p 49△1 p 49△2</p>	<p>・被除数の百の位と除数を比べれば素早く判断できることのよさを味わわせる。</p> <p>【知・技】 既習の除法の筆算の仕方を用いて、3位数$\div$$1$位数$=$$2$位数(首位に商がたたない)の計算の答えを求めることができる。(ノート)</p>	<p>広げる 10分</p>
<p>ふり返る 5分</p> <p>・本時の学習について自分の学びについてふり返らせる。 相互のつながりについて感じたことも書かせる。</p> <p>【仮説1-③】</p>	<p>9ふりかえり ○今日の学習をふり返りましょう。</p>	<p>共通 共通 終末 終末</p>	<p>10ふりかえり ○今日の学習をふり返りましょう。</p>	<p>・本時の学習について自分の学びについてふり返らせる。 相互のつながりについて感じたことも書かせる。</p> <p>【仮説1-③】</p>	<p>ふり返る 5分</p>

「ふりかえり」の観点 A・・・わかった・できた B・・・考えた・気付いた C・・・もっと次は D・・・話し合って

(5) 板書計画

(3 学年)

ゼリーが **14** 個あります。1 人に 3 こずつ分けると、何人に分けられますか。

課題 $14 \div 3$ のようなわり算のしかたを考えよう。

$14 \div 3 = 4$ ~~あまり 2~~ **わりきれない**
あまりがない \rightarrow **わりきれ**

まとめ
あまりがあるときも、わり算の式で表すことができる。答えを見つけるときは、これまでのわり算と同じようにわる数のだんの九九を使うことができる。

12 のとき $12 \div 3 = 4$
15 のとき $15 \div 3 = 5$
(教科書の図) 3 のだんの九九
 $3 \times 5 = 15$
答え 5 人

おはじきや図

(教科書の図)

分けきれるまで
分ける

答え 4 人に分けられて 2 こあまる。

○ $27 \div 4$ はわり切れるか

14 のとき
式 $14 \div 3$ **九九に 14 がいない**

かけ算

$3 \times 3 = 9 \rightarrow$ まだ分けられる

$3 \times 4 = 12 \rightarrow 2$ こあまる

$3 \times 5 = 15 \rightarrow 1$ こ足りない

5 人目は同じ数じゃない!

3 のだんの九九を使った

(4 学年)

256 まいの色紙を、4 人で同じ数ずつ分けます。1 人分は何まいになりますか。

課題 百の位の数がわる数より小さい筆算のしかたを考えよう。

まとめ
わられる数のいちばん大きい位の数が、わる数より小さいときは 次の位の数まで ~~ふくめた~~ 数で計算を始める。

(教科書の図)

(教科書の図)

(教科書の図)

式 $256 \div 4$

見当

・ $240 \div 4 = 60$ 60 まいより多い

・ $280 \div 4 = 70$ 70 まいより少ない

合わせて 10 が 25 たば

$25 \div 4 = 6$ あまり 1 \rightarrow 1 人 6 たば (60 まい)

あまりの 10 のたば 1 つとばらを合わせて

$16 \div 4 = 4 \rightarrow$ 1 人 4 まい

合わせて 1 人 64 まい

けん算 $4 \times 64 = 256$

$732 \div 4$ とのちがい

時	目 標	おもな評価規準	時	目 標	おもな評価規準
				①何十、何百のわり算 上p.36～38 1時間	
			1	[プロローグ] p.36を提示し、除数が4で被除数が24や30の場合の除法計算について振り返り、被除数が大きくなったら計算はどうなるかという単元の課題を設定する。 ○10や100のまとまりを用いて、乗法九九1回の適用で商が何十や何百になる除法（余りなし）の計算の仕方を考え、説明することができる。	知・技 既習の計算方法を用いて、商が何十や何百になる除法の考えを求めることができる。 思・判・表 10や100のまとまりに着目して、商が何十や何百になる除法の計算方法を考え、説明している。
				②わり算の筆算（1）上p.39～46 6時間	
			2	○2位数÷1位数（余りなし）の筆算の仕方を既習の除法の計算方法を基に考え、理解する。	知・技 既習の除法計算を用いて2位数÷1位数（余りなし）の計算の答えを求めることができる。 思・判・表 数のまとまりや既習の除法の計算方法に着目して、2位数÷1位数（余りなし）の計算方法を考え、図を用いながら説明している。
			3		
			4	○2位数÷1位数（余りありで、各位ともわり切れない）の筆算の仕方を既習の除法の計算方法を基に考え、計算することができる。	知・技 既習の除法計算を用いて2位数÷1位数（余りありで、各位ともわりきれない）の計算の答えを求めることができる。 思・判・表 既習の除法の計算方法に着目して、2位数÷1位数（余りありで、各位ともわりきれない）の計算方法や検算方法を考え、説明している。
			5	○2位数÷1位数（余りありで、十の位でわり切れる）の筆算の仕方を既習の筆算の仕方を基に考え、その計算方法を説明することができる。	知・技 既習の筆算の仕方を基に用いて、2位数÷1位数（余りありで、十の位でわりきれない）の筆算の答えを求めることができる。 思・判・表 既習事項との違い（十の位でわりきれないこと）に着目して、2位数÷1位数（余りありで、十の位でわりきれない）の筆算の仕方を考え、説明している。
	前の単元 「3 わり算」 の学習		6	○3位数÷1位数=3位数（各位ともわり切れない、及び一の位でわりきれない）の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。	知・技 既習の筆算の仕方を基に用いて、3位数÷1位数=3位数（各位ともわりきれない、及び一の位でわりきれない）の筆算の答えを求めることができる。 思・判・表 既習の2位数÷1位数の筆算の手順に着目して、3位数÷1位数の筆算の仕方を具体物や式を用いて考え、説明している。
			7	○3位数÷1位数=3位数（商に空位を含む、及び百の位や十の位でわり切れる）の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。	知・技 3位数÷1位数=3位数（商に空位を含む、及び百の位や十の位でわりきれない）の筆算の答えを求めることができる。 思・判・表 既習の3位数÷1位数の筆算の手順に着目して、3位数÷1位数（商に空位を含む、及び百の位や十の位でわりきれない）の筆算の仕方を考え、説明している。
				③あまりのあるわり算 上p.74～80 5時間	
			1	[プロローグ] 教科書p.74のイラストを見て、既習の余りのない除法の計算についての話し合いを通して、余りのある除法の意味や計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 ○除数と商が1位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を理解する。	知・技 既習の除法の計算方法を用いて、わり切れない場合の除法についても計算することができる。 思・判・表 わり切れない場合の除法の計算の仕方について、既習のわり切れる場合の除法を基に考え、図や式を用いて説明している。
			2	○余りと除数の関係を理解する。	知・技 余りが除数より小さくなることを理解し、計算することができる。
			3	○等分除の計算についても、包含除の計算の方法を基に考え、説明することができる。	思・判・表 わり切れない場合の等分除の計算の仕方を、既習の等分除の計算の仕方を基に考え、具体物や図、式などを用いて説明している。
			4	○わり切れない場合の除法の計算について、答えの確かめ方を理解している。	知・技 わり切れない場合の除法の答えの確かめ方を理解している。
				④わり算の筆算（2） 上p.47～49 1時間	
			8	○3位数÷1位数=2位数（首位に商がたたない）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	知・技 既習の除法の筆算の仕方を基に用いて、3位数÷1位数=2位数（首位に商がたたない）の計算の答えを求めることができる。 思・判・表 筆算の仕方について、10のまとまりに着目して具体物や式を用いて筆算の仕方を考え、説明している。
				⑤暗算 上p.50～51 1時間	
			9	○2位数÷1位数=2位数の除法の暗算と、10、100の倍数（3位数）を1位数でわる除法の暗算の仕方を計算のきまりを基に考え、説明することができる。	思・判・表 2～3位数÷1位数の暗算の仕方を、被除数を分解したり、被除数の相対的な大きさをとらえたりして、既習の暗算の仕方に着目して考え、説明している。 態 度 暗算した過程を振り返り、自分に合った計算の仕方を考え、今後の学習に生かそうとしている。
				まとめ 上p.52～54 2時間	
			10	○学習内容を適用して問題を解決する。	思・判・表 学習内容を適切に活用して筋道を立てて考え、問題を解決している。

算数 3・4年

宮古市立川井小学校 令和4年11月15日(火)

第3学年 重さのたんいとはかり方
(東京書籍「新しい算数4下」P22)

第4学年 計算のきまり
(東京書籍「新しい算数4下」P2)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○間接指導の学習の充実に向けて ～単元構想図の作成～

複式形態の授業では、子どもたちが間接指導の間も探究し続けることができるようにすることが大切です。川井小学校では「単元構想図(単元を図式化し、単元における単位時間の位置付けやそれぞれの時間の関連性を可視化したもの※指導案参照)」を作成し、指導者が単元を俯瞰して捉え、より単元を見通した指導ができるようにしています。これは、単式形態の授業においても大切な視点です。

右の写真は、3年生の直接指導(導入)場面です。前時まで使っていた「はかり」の上にランドセルを乗せると、はりが1周してしまい重さを正しく測ることができないことを確かめている場面です。新たな「はかり」の必要感をもつことができるようにしています。この後の間接指導で、これまでの経験や既習事項を基に、見通しをもちながら活動することができました。



「本時の重点として直接指導しなければならないことは何か」「それを学習過程のどこに位置付けるか」「いかに子どもの学習状況を適切に見取って評価するか」などの面から、「直接指導の内容を厳選し、間接指導に切り替える内容を増やしていくこと」が求められます。

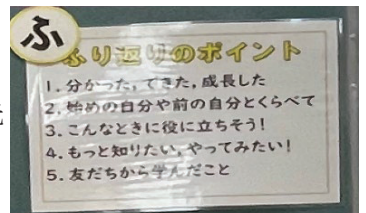
○学習過程3つの重点の設定

- ①児童自らが学ぶ価値を見出すことができる導入
- ②自分の考えを広げ・深める学習活動
- ③学びと成長を自覚できる振り返り

本実践では、他者と話し合う活動に限らず、調査活動や体験的な活動、自力で考え試行錯誤する活動など様々な場面を「考えを広げ・深める学習活動」として捉えています。右の写真は、4年生の間接指導(展開)場面です。問題文と式、半具体物を関連させながら説明し合う活動です。子どもたちはタブレットを活用し、自力で考えながら試行錯誤したり自分たちで考えを交流したりしています。友達のアイデアを知ること、自分の考えを広げたり深めたりしています。間接指導時に児童が「何をすればよいのか」「わからないときはどうするのか」「解決し終わったら何をするのか」等、学び方を確実に身に付けさせることができています。



また、本実践では、振り返りの視点を(複式の実態を踏まえながら)学級ごとに作成しています(右写真)。自分でも学びと成長を自覚できるように、これまでの学びと比較した記述もさせています。また、単元の指導終了後に、児童の変容から成果と課題を考えることで、振り返りの質の向上を図っています。



複式形態の授業と単式の授業とで、別々に考えてしまいがちですが、各教科等の目標や指導内容は共通です。本実践は「いわての授業づくり3つの視点」に沿って、学校(複式)の実態を考えながら(複式指導のよさを生かす)重点を設定しています。直接指導・間接指導の効果的な組合せやタイミングと、「単元構想図」や「学習過程3つの重点」とを関連させながら考えることで、子どもたちが学びをより自分事として捉え、主体的に活動することができます。

第3・4学年 算数科複式学習指導案

児童 3年5名 4年8名 計13名

指導者 大久保 友貴

<3年生>

1 単元名

「重さのたんいとはかり方」

2 単元の目標と評価規準

- (1) 重さについて、単位や単位の間接関係を理解し、およその見当をつけ、適切な計器を選んで測定することができる。
- (2) 身の回りのものの重さやその単位に着目し、量感覚を身に付けたり、単位の間接関係を統合的に考え、説明したりしている。
- (3) 身の回りにあるものの重さやそれを数値化することのよさ、普遍単位の必要性を振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。

<4年生>

1 単元名

「計算のきまり」

2 単元の目標と評価規準

- (1) 四則の混合した式や()を用いた式、四則に関して成り立つ性質について理解し、正しく計算することができる。
- (2) 問題場面の数量の関数に着目し、式の意味を読み取ったり、計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えたりすることができる。
- (3) 式や計算に関して成り立つ性質について数学的に表現・処理したことを振り返り、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に生かそうとしている。

知識・技能	<ol style="list-style-type: none"> ① 重さの単位(g, kg, t)について知り、重さも単位の幾つ分かで測定できることを理解している。 ② 重さについて、適切な単位で表すことができる。 ③ 重さについて、およその見当を付け計器を適切に選んで測定することができる。 ④ メートル法の単位の仕組みについて理解している。
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> ① 長さ、体積、重さについて、1 kmは1000 m, 1 Lは1000 ml, 1 kgは1000 gなどの関係を基に、既習の単位を整理し、接頭語が表す倍の関係などに気付いている。 ② メートル法の単位の仕組みを活用し、新しい単位に出会ったときも類推して量の大きさを考えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ol style="list-style-type: none"> ① 重さについて、およその見当を付け、効率的に測定しようとしている。 ② 長さや重さなどの単位を用いて表したことを振り返り、「m」「c」「k」などの接頭語が共通に用いられているというメートル法の単位の仕組みのよさに気づき、身の回りで使われている新しい量の単位に出会ったときも類推してその単位の大きさや関係について考えようとしている。

知識・技能	<ol style="list-style-type: none"> ① 一つの数量を表すのに()を用いることや乗法、除法を用いて表された式が一つの数量を表すことなどを理解している。 ② 乗法、除法を加法、減法より先に計算することや()の中を先に計算することなどのきまりがあることを理解している。 ③ 数量の関係を式で簡潔に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ④ 四則の混合した式や()を用いた式について正しく計算することができる。 ⑤ □、△などの記号を用いて、交換法則、結合法則、分配法則を一般的な式に表すことができる。 ⑥ 計算の範囲を整数から小数に広げても、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解している。 ⑦ □、△などを用いた式では、「同じ記号には同じ数が入る」ことを理解している。
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> ① 式の意味を読み、具体的な場面や思考の道筋を考えている。 ② 交換法則、結合法則、分配法則を用いて計算を簡単に行うことを考えている。 ③ 交換法則、結合法則、分配法則が整数だけではなく小数について成り立つことを、図などを用いて考えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ol style="list-style-type: none"> ① 一つの式に表すことのよさに気づき、数量の関係を簡潔に表現したり、式の意味を読み取ろうとしたりしている。 ② 整数や小数の計算に、計算に関して成り立つ性質を用いると計算を簡単に行うことができる場合があることなど、計算に関して成り立つ性質のよさに気づき、工夫して計算しようとしている。

3 指導と評価の計画

【3年生】

※「・」…指導に生かす評価、「○」…記録に残す評価

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	任意単位のいくつ分かに着目し、測定する活動を通して、重さを数値化することのよさに気付くことができる。			・態①（行動観察、ノート分析）
3	普遍単位に着目し、身の回りのものの重さを調べる活動を通して、重さを表す単位「グラム（g）」について理解することができる。	・知①②（行動観察、ノート分析）		
4	ものの重さに着目し、はかりを用いて測定する活動を通して、目盛りの読み方を理解しようとしている。			○態①（行動観察、ノート分析）
5 本時 6	ものの重さの表し方に着目し、身の回りのものの重さを調べる活動を通して、重さを表す単位「キログラム（kg）」について理解することができる。	・知③（行動観察、ノート分析）		
7	正味、容器、全体の重さの関係に着目し、計算で求める活動を通して、重さの加法性や測定の仕方の工夫を理解することができる。			
8	ものの重さの表し方に着目し、身の回りのものの重さを調べる活動を通して、重さを表す単位「トン（t）」、 $1\text{ t} = 1000\text{ kg}$ について理解することができる。 既習の単位に着目し、それぞれの量の単位の間関係をまとめる活動を通して、接頭語と単位の間関係について説明することができる。	・知④（行動観察、ノート分析）	・思①②（行動観察、ノート分析）	○態②（行動観察、ノート分析）
9	学習内容の習熟・定着を確認し、数学的な見方・考え方を振り返る。	○知①～④（ペーパーテスト）	○思①②（ペーパーテスト）	

【4年生】

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	数量の関係に着目し、2つの式で表される場面について、1つの式に表す方法を既習の計算のきまりや（ ）を用いることを理解し、説明しようとしている。	・知③（行動観察、ノート分析）		・態①（行動観察、ノート分析）
2	数量の関係に着目し、四則混合の式の表し方や計算順序を理解し、計算することができる。	・知①②（行動観察、ノート分析）		
3	数量の関係に着目し、四則混合の式の表し方や計算順序を理解し、計算することができる。	・知④（行動観察、ノート分析）		
4 本時	ドットの並び方やまとまりに着目し、ドットの数の求め方を多面的に考え、図や式に表したり、図や式から考え方を読み取ったりして考えることができる。		・思①（行動観察、ノート分析）	○態①（行動観察、ノート分析）
5	式にある数に着目し、分配法則を□や○などを使って一般的にまとめ、それを用いて計算を簡単にする工夫を考えることを通して、分配法則について理解することができる。	・知⑤（行動観察、ノート分析）	・思②（行動観察、ノート分析）	
6	式にある数に着目し、交換法則や結合法則を用いて計算を簡単にする工夫を考え、計算することができる。	・知⑥⑦（行動観察、ノート分析）		・態②（行動観察、ノート分析）
7	被乗数や乗数と積に着目し、式を比較する活動を通して、乗法の性質を考えることができる。		・思③（行動観察、ノート分析）	○態②（行動観察、ノート分析）
8	友だちがつくった式に着目し、計算のきまりを用いて友だちがつくった式を文章にすることができる。	○知①～⑤（行動観察、ノート分析）		
9	学習内容の習熟・定着を確認し、数学的な見方・考え方を振り返る。	○知⑥⑦（ペーパーテスト）	○思①～③（ペーパーテスト）	

4 児童について
(省略)

4 児童について
(省略)

5 単元について

(1) 単元構想図

【3年生】

< >…指導に生かす評価
 << >>…記録に残す評価

はさみが重そう。 ⊕ 重さくらべをしよう。 ⊙ のりが重そう。

直接比較 → **任意単位による比較** → **普遍単位による比較**

① てんびんで重さをくらべよう。 <態①>

かたむき方に注目すると、下がっているほうが重い。

1つ1つ比べるのは大変。

② どうすれば重さを数で表せるだろう。 <態①>

同じ重さのものが何こ分で数を表せる。

同じものがたくさんないと、重さを数で表せない。

③ 重さの表し方を調べよう。 <知①②態①>

重さは、1gが何こ分かで表せる。

一番重かったのは、コンパス。

赤いはりは何だろう。 ⊕ ○○の重さをはかろう。 ⊙ 重いものを表す単位はあるかな。

④ はかりのしくみを調べよう。 <<態①>>

数直線を読むときと同じ。

たくさんのものの重さをかんたんにはかることができた。

⑤ 重いものの重さは、どのように表せばいいのだろう。 (本時) <知③>

重いものの重さはkgで表す。

○○の重さは□kg。

○○と○○をはかりにおいてみよう。 ⊕ ○○の重さを表すたんいがあるといいな。 ⊙

⑥ 1kgぴったり近づけよう。 <知③>

1kgは1000g

○○と○○の重さを合わせたら1kgに近づけられた。

⑦ どのようにして計算で重さを求めるのだろう。 <知③>

同じたんの数どうしを計算すればよい。

⑧ とても重いものの重さは、どのように表せばいいのだろう。 <知④思①②><<態②>>

tを使うと、小さい数で表せる。

1円玉が1000枚で1kgになってびっくりした。

⑨ たしかめよう。 <<知①~④思①②>> ⊙

重さも、長さや水のかさと同じように、いくつかのたんいがある。

㊦ 友だちが考えた式を文章にしよう。

1つの式に表したけど、答えがちがう。

①② 先生の買い物を1つの式に表す方法を考えよう。〈知①②③態①〉

ひとまとまりの数とみる部分を()を使って表す。

()の中を先に計算する。

- ・()を書かないときもある。
- ・かけ算やわり算は先に計算する。
- ・左から計算する。

③ 答えが1になる式をつくらう。〈知④〉

いろいろな問題で1つの式に表せそう。

1つずつ数えるのはめんどう。

まとまりを見つけたいな。

できるだけすっきりした式にしたい。

④ どうすれば、ドットの数を1つの式に表せるだろう。(本時)〈思①〉〈態①〉

同じ数のまとまりをつくと、いろいろな方法で求められる。

1つの式から、どのように考えたのか読み取ることができた。

1つの式で表す

式の意味を理解する

⑤⑥ おかしの個数や値段を計算でかんたんに求めよう。〈知⑤~⑦思②態②〉

10や100, 何十などきりのよい数字を()を使ってまとめる。

計算のきまりを使うと筆算をせずに計算できた。

同じ記号には同じ数が入る。

分配のきまり
交換のきまり
結合のきまり

小数でも計算のきまりを使って計算できる。

きりのよい数字を見つけたいな。

⑦ どうすれば、積がかんたんに求められるだろう。〈思③〉〈態②〉

かけ算の性質

計算のきまりを使えばよい。

10や100を見つけられると、かんたんに計算できた。

式を読むと、友だちがどのように考えたのかが分かりやすい。

⑧ 友だちが考えた式を文章にしよう。〈知①~⑤〉

⑨ たしかめよう。〈知⑥⑦思①~③〉

これからは式をよく見て、計算がかんたんになるか考えたい。

6 本時の指導（5／9）

（1） 本時の目標

ものの重さの表し方に着目し、身の回りのものの重さを調べる活動を通して、重さを表す単位「キログラム（kg）」について理解することができる。

（2） 展開

6 本時の指導（4／9）

（1） 本時の目標

ドットの並び方やまとまりに着目し、ドットの数の求め方を多様に考え、図や式に表したり、図や式から考え方を読み取ったりして考えることができる。

（2） 展開

第3学年		第4学年		
○指導上の留意点 ◆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	段階	学習活動 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◆評価
<p>○前時までにグループ分けと測定するものを決めておく。</p> <p>○前時まで使っていたはかりの上にランドセルをのせ、このはかりでは重さを正確に測れないことを確かめることで、新たなはかりの必要感をもつことができるようにする。</p>	<p>1. 問題を把握する。</p> <p>はかりを使って、自分が調べたいいろいろなものの重さを調べましょう。</p>	<p>つかむ ・見通す ⑤</p>	<p>1. 問題を把握する。</p> <p>○は何こありますか。 いろいろな求め方を考えましょう。</p>	<p>○前時までの学習の掲示などを見ながら振り返り、本単元の条件である「1つの式で表すこと」や「まとまりを見つけるとよいこと」を確認する。</p>
	<p>○前時に学習したはかりを使うときの注意を確かめる。</p> <p>○はかりにのせるものの数は1つだけに限定する。</p>		<p>2. 課題を立てる。</p> <p>重いものの重さは、どのように表せばいいのだろう。</p> <p>3. 見通しをもつ。 （1）「kg」という言葉を知る。 （2）新しいはかりの使い方を確かめる。 （3）見当をつけてから、測定する。</p>	
	<p>4. グループで活動を行う。 （1）測るものの重さの見当を付ける。 （2）測定する。 ・本 ・辞典 ・人形等</p>	<p>学び合う ⑬</p>	<p>3. 課題を立てる。</p> <p>どうすれば、ドットの数を1つの式に表せるだろう。</p> <p>4. 自力解決する。 （1）ドットを線で囲む。 ・3のまとまりが8こできた。</p>	<p>○3つのドットで1分として囲めるようにヒントカードを用意する。</p>

○指導者が事前に重さを測定しておく。ペアでの活動終了3分前に正しく測定できていたか確認する。				(2) 式に表す。 $3 \times 8 + 1 = 25$	○1つの式で表すことを確認する。
				5. 全体で交流する。 ・3のまとまりが8つあります。バラが1つあるので、 $3 \times 8 + 1 = 25$ になります。	
	5. 学習をまとめる。	まとめる ③	学び合う ⑨	6. 自力解決する。 ・ $4 \times 4 + 3 \times 3$ の式を表すように、ドットを線で囲む。	○同じ数のまとまりを線で囲むことを確認する。 ○囲み方は1つではないことも確認する。 ◆ドットの並び方やまとまりに着目し、ドットの数の求め方を多様に考え、図や式に表したり、図や式から考え方を読み取ったりして考えることができる。(観察・ノート)
	重いものの重さは、kgを使うと、小さい数で表すことができる。				
○前時まで使用していたはかり(1kgまで測定できる)を用意し、見当した重さによってはかりを自分で選択する。 ○はかりにのせるものの数は1つだけに限定する。 ◆ものの重さの表し方に着目し、身の回りのものの重さを調べる活動を通して、重さを表す単位「キログラム(kg)」について理解することができる。(観察・ノート)	6. 先生問題に取り組む。 ・1kgにぴったりに近いものを見つける。	学び合う ⑩	まとめる ⑭	7. 学習をまとめる。	同じ数のまとまりを見つけると、いろいろな求め方で○の数を求めることができる。
				8. 適応問題に取り組む。	
	7. 本時の学習を振り返る。	振り返る ⑤	振り返る ⑤	9. 本時の学習を振り返る。	

本時の視点

・測定物の重さに合わせて、はかりを選択する学習活動を行う際、測定物は適切であったか。(重点②)

・同じ数のまとまりに着目し説明する学習活動を行う上で、図から式に表す学習活動とその反対の流れである式から図に表す活動を行ったことは適切であったか。(重点②)

(3) 板書計画

【3年生】

<p>㊦</p> <p>はかりを使って、自分が調べたいいろいろなものの重さを調べましょう。</p>	<p>㊦</p> <p>重いものの重さは、どのように表せばいいのだろう。</p>	<p>㊦</p> <p>重いものの重さは、k gを使うと、小さい数で表すことができる。</p>
<p>重いものを表すとき キログラムは、k gと書く。 $1\text{ kg} = 1000\text{ g}$</p>	<p>はかりの使い方</p>	<p>先生問だい</p> <p>1 k g ぴつたりに近いものを見つけよう。</p> <p>㊦</p>

【4年生】

<p>㊦</p> <p>○は何こありますか。 いろいろな求め方を 考えましょう。</p> <p>㊦</p>	<p>㊦</p> <p>どうすれば、ドットの数 1つの式に表せるだろう。</p>	<p>㊦</p> <p>同じ数のまとまりを見つけると、 いろいろな求め方で○の数を求めることができる。</p>
<p>㊦</p> <p>3のまとまりが8つと ばらが1つ $3 \times 8 + 1 = 25$</p>	<p>㊦</p> <p>4のまとまりが4つと 3のまとまりが3つ $4 \times 4 + 3 \times 3$</p>	<p>適応問題</p> <p>㊦</p>

体育 5・6年

一戸町立小鳥谷小学校 令和4年11月28日(月)

体の動きを高める運動(第5・6学年)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



【体づくり運動の特性】

高学年における体づくり運動では、楽しく運動に取り組みながら体の様々な動きを身に付けたり高めたりすることが主なねらいであることから、複式指導において同じ学習課題や学習(運動)内容で進めることができる領域です。また、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができるため、異学年でも豊かに関わり合う大切さや楽しさも体験できます。

【2年間を見通した単元構成】

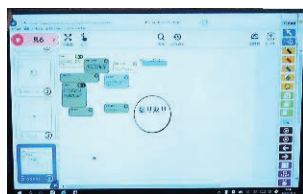
体育科の内容のまとまりは2年間で構成されているため、複式指導では2年間の指導を見通した系統的な単元計画の作成ができる利点があります。体づくり運動は、運動の基本となる様々な動きを習得するため各領域の土台となります。よって、“楽しい運動”だけで終わることなく、児童に資質・能力が身に付くよう計画的に指導することが大切です。



<ICTの効果的な活用>

本実践では、児童の実態に応じた運動内容の設定や場の設定の工夫により、異学年による協働的な学びが実現しています。さらに、ICTを効果的に活用することで、自分の動きを具体的に観察したり、児童の考えや振り返り等を短時間で共有したりすることができます。このような活用により、自己の課題発見及び解決、仲間への的確なアドバイス、協働的な学びの促進等が期待できます。

※ICTの活用は効果的ですが、一方で運動を止める要因にもなります。活用する時間や頻度は、十分に留意しましょう。



付箋機能を活用した振り返りの共有



体の動きを互いに撮影し課題解決に活用



<単元評価規準の設定>

複式指導では、特に技能面において、学年ごとに技能差が認められることから、技能の評価規準を学年ごとに設定し、2年間の見通しをもって計画的に評価し、資質・能力を身に付けさせていくことが大切になります。

上記のことを前提にしながらも、本実践で扱う体づくり運動については、他の運動領域のように特定の技能を系統的に向上させることがねらいではないという特性があります。そこで本単元では、「知識・技能」及び「主体的に取り組む態度」の評価規準は2学年で共通とし、「思考・判断・表現」の評価規準を学年ごとの設定としています。また、自校の研究と関連させ、伝え合う活動について単元を通して位置付けたことから、特に表現に関する評価規準を多く設定しています。このように、学校として身に付けさせたい資質・能力を明確にし、そのために各教科でどのように取り組み、評価するかを具体化することが大切です。

第5・6学年 体育科学学習指導案

日 時 令和4年11月28日(月) 5校時
場 所 体育館
児 童 【6年】男子5名 女子1名
 【5年】男子3名 女子1名 計10名
指導者 菅田 敏哉

1 単元名 こずや道場～昨日の自分を超えていけ～(体づくり運動)

2 単元について

(1) 教材について

高学年の体づくり運動は、「体ほぐしの運動」及び「体の動きを高める運動」で構成され、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、体の様々な動きを高めるための運動である。手軽な運動を行うことを通して自己や仲間の心と体との関係に気付くとともに、体の動きを高める運動の行い方を理解し、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めて中学校での体づくり運動の学習につなげていくことが求められる。また、児童が運動の必要性や行い方を理解し、自己の心と体の状態を捉え、仲間と話し合いながら解決の仕方を工夫し合うとともに、考えたことを仲間に伝えたり、場や用具の安全に気を配って運動をしたりできるようにすることが大切である。

(2) 児童について

(省略)

(3) 指導について

体ほぐしの運動では、その行い方を理解するとともに、手軽な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことを通して、自己や仲間の心と体の状態に気付いたり、仲間と豊かに関わり合ったりさせるものだが、今回は準備運動としてのセットメニューで一部行うだけで評価には含まない。また、体の動きを高める運動では、体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方を理解するとともに、自己の課題を踏まえ、直接的に体力の向上をねらいとして、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行わせていく。さらに、自己の心と体の状態や体力に応じて運動の種類や行い方を選んだり、自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えたりさせていく。

(4) 研究主題との関わり

【研究内容】児童の伝え合う活動を充実させるための手立ての在り方

- ①運動量の確保に努めるために、運動のコツや気付きをタブレットの動画機能や付箋機能を使用し、それぞれで確認する。
- ②児童のコツや気付きを他の児童へ向けてファシリテートすることで、活動の中で試行錯誤させる場面をつくる。

(5) 単元の目標

- ・体づくり運動の行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすることができるようにする。【知識及び運動】
- イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動ができるようにする。
- ・自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力】
- ・運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

(6) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年	①体づくり運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②体の柔らかさを高めるための運動をすることができる。 ③巧みな動きを高めるための運動をすることができる。 ④力強い動きを高めるための運動をすることができる。	①運動を行うと心と体が軽やかになったことやみんなで協力して運動をすると楽しさが増したことを振り返りの時間に発表している。 ②工夫した運動のコツなどをグループ内で教え合ったり、他のグループに言葉で伝えたりしている。	①体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。 ②運動を行う際の約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ③運動を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。
6年	⑤動きを持続する能力を高めるための運動をすることができる。	①体の動きを高めるためにどのような運動に取り組むとよいか、自己の課題を見付けている。 ②工夫した運動のコツなどをグループ内で教え合ったり、他のグループに言葉で伝えたりしている。 ③複数の運動を試して行い、比べてみることを通して、気づきや関わり合いが深まりやすい運動を選んでいる。	④運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。

(7) 単元の指導計画・評価計画 (全9時間)

時	1	2	3	4	5	6	7	8 (本時)	9	
	オリエンテーション	体の動かし方を覚えよう					動きを工夫して運動しよう			
0	学習過程と1時間の流れの確認 安全の約束	あ い さ つ ・ 健 康 観 察								
5		本 時 の 流 れ ・ め あ て の 確 認								
10		セ ッ ト メ ニ ュー								
	セットメニューの確認	尺取り虫 平均台渡り タッチ or マーカー	フープ リレー ボール はさみ チームジャグリング 前転 キャッチ 馬とび キャッチ	リンボー 長なわ (走る) (ボール) (短なわ) 走って取って跳んで	階段マット ジャンケン タグ取り ボール回収 リレー	・手押し車 (ポイント) ・おんぶジャンケン (ポイント) グリコ ゲーム	尺取り虫 ジグザグ走 階段マット 上記の運動の動きを工夫する	みんなで 点数を伸ばせなきゃ 帰れま 10	息合わせ 縄跳び超えて 走り抜け ～団体戦～	
	体 の 動 き を 高 め る 運 動									
	(ア)柔らかさ (イ)巧み	(ア)柔らかさ (イ)巧み	(ア)柔らかさ (イ)巧み	(ア)柔らかさ (イ)巧み (エ)持続	(ウ)力強い (エ)持続 ・運動の行い方を工夫する。	(ア)～(エ) ・運動の行い方を工夫する。 ・考えたことを例示して見せる。	(ア)～(エ) ・運動の行い方を工夫する。 ・考えたことを例示して見せる。	(ア)～(エ) ・運動の行い方を工夫する。 ・考えたことを他者に伝える。		
35	【選択や工夫の方向】(条件の加え方) ①動きの条件 姿勢を変えて・複数の動きを追加して ②人数の条件 1人・ペア・(グループ) ③用具の条件 手具を加えて・用具を加えて ④負荷の条件 時間を長く・回数を多く・距離を長く 重さを重く・テンポやリズムを速く									
	振り返り(学習の記録)、片付け、次時の学習の確認									
知		① 観察・記録		② 観察・記録	③ 観察・記録	④ 観察・記録	⑤ 観察・記録			
思			①/③ 5年/6年 観察・記録				②/① 5年/6年 観察・記録	② 6年 観察・記録	総括 評価	
態	② 観察	④ 観察				③ 観察		① 観察		

3 本時について

(1) 目標

工夫した運動のコツなどをグループ内で教え合ったり、他のグループに言葉で伝えたりすることができる。

(2) 評価規準

おおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
工夫した運動のコツなどをグループ内で教え合ったり、他のグループに言葉で伝えたりしている。 【思考・判断・表現】 体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】	グループの友達が取り組んでいるように、工夫した運動の動き方をまねしてみるように、声かけをする。

(3) ICT活用のねらい

・動画や付箋機能により、運動のコツの共有化、振り返りの促進、運動時間の確保をねらう。

(4) 展開

段階	学習内容	指導上の留意点 ・手立て ○評価
導入 10分 つかむ・見通す	1 集合・整列・挨拶 2 本時のねらいの確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> コツをみんなのものにして、高得点をねらおう。 </div> 3 セットメニュー ・あんたがたどこさ ・ブリッジ ・腕立てジャンケン	※運動前の心の状態を確かめる。 ※タブレットを利用して、コツを伝えていくが、入力時間をかけないように留意する。 ※場の説明やタブレットなどを置く位置を確認する。
展開 25分 深める	4 体の動きを高める運動 (1) グループに分かれて前時に工夫した運動を行う。 (2) 運動を行っていく中でコツまたは、上手くいかなかった例などを入力する。	手立て① ・運動量の確保に努めるために、運動のコツや気付きをタブレットの動画機能や付箋機能を使用し、それぞれで確認する。 手立て② ・児童のコツや気付きを他の児童へ向けてファシリテートすることで、活動の中で試行錯誤させる場面をつくる。 ○工夫した運動のコツなどをグループ内で教

国語
1・2年

第1学年 おはなしをたのしもう

「おおきなかぶ」(光村図書 1年)

第2学年 お話をよんで、かんそうを
つたえあおう

「スイミー」(光村図書 2年)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



- 本実践は、両学年とも「読むこと」の文学的な文章における学習内容です。本校の複式学級では、導入場面で、異学年でも同じ学習材について考えたり、学習材は異なっても、学習内容の共通点を比べたりする「共通導入」を行っています。また、終末場面では、お互いの学習内容や学習方法について改めて比べ、共通点や関連性はないか考えさせる「共通まとめ」を取り入れています。このような「共通導入」「共通まとめ」をしていくことで、学びの広がりや深まりを児童自身が実感することができます。また、学習内容は異なっても、「一緒に学んでいる」という学級としての一体感も生まれます。複式学級だからこそ、共に学んでいるという意識を常にもてるような工夫が必要です。



本時は、導入場面で、1年生は「なぜかぶはぬけたのだろうか。」2年生は「なぜスイミーは元気をとりもどしていったのだろうか。」という課題を設定しました。その後、学習内容を比較し、似ているところについて問いました。児童は「ぬけなかったかぶがぬけるところと、暗い気持ちのスイミーが元気を取り戻していくところ。どちらもマイナスがプラスに変わっている場面です。」という共通点に気付くことができました。

共通導入で学習内容を比べる際には、比較を促す発問はもちろん、板書を同構造にすることで比べやすくしたり、叙述や挿絵をもとに比較したりします。そうすることで自分の学年の学習内容だけでは気が付かなかった新たな視点が生まれ、深い学びにつながります。

- 複式指導においては、直接指導の時間は限られていることから、軽重をつけた指導がとても大切です。そこで、本実践では、特に発問を吟味し、全員を学びの共通の土台にのせ、話し合いを焦点化するための「つかむ発問」、文章を根拠に、新たな気付きにつなげていくための「ゆさぶる発問」の2つの発問を大きな軸として授業を組み立てました。この2つの発問を通して、本時の課題に対しての自分の考えを広げ、深めていきました。

また、間接指導では、課題に対して自分の考えとその考えを支える根拠と理由を書き、話し合いました。1年生は直接指導で出し合った考えを整理し、改めて自分の考えをもつために、2年生は直接指導で自分なりの考えを明確にしたうえで、学び合いができるようにするためです。



基本的に間接指導では、本時の課題に対しての自分の考えをノートに書き、同学年の児童同士で話し合う学び合いを行っています。その際、児童が迷わないために、導入場面で本時は何を考えてくのかを明確にすることが大切です。そこで、課題は「なぜ～なのだろうか。」のように内容課題とし、それについて叙述を根拠としながら自分の考えをもつことができるようにします。間接指導での学び合いの際にも、自分の考えを伝えるだけでなく、理由を尋ね合ったり、似ているところや違うところはないか比べ合ったりするように日々指導していくことで、子供が学び方を理解し、間接指導での学び合いの質を高めていくことができます。

第1・2学年国語科学習指導案

場 所 1・2年ちどり組教室
指 導 者 遠藤 真央

- 1 単元名 1年生：おはなしをたのしもう
2年生：お話をよんで、かんそうをつたえあおう
- 2 学習材名 1年生：「おおきなかぶ」（光村図書 1年）
2年生：「スイミー」（光村図書 2年）
- 3 単元について

1年生	2年生
<p>初めての物語文「はなのみち」の学習では、叙述や挿絵をもとに、くまさんの行動や気持ちを捉えたり、他の動物たちの様子について想像を膨らませたりしながら読み、音読に生かす学習を行った。叙述に基づき、場面や登場人物の行動について捉えていく力を身に付けていきたい。</p> <p>学習材「おおきなかぶ」は、おじいさんが種をまき、大きく育ってなかなかぬけないかぶを、人や動物が次々と加わって引っ張り、力を合わせて抜く物語である。繰り返し同じ言葉が出てくることでリズムカルに読むことができる文章であり、児童にとっても親しみやすい。「うんとこしょ、どっこいしょ」という掛け声や「～を～がひっぱって」という繰り返しの文章、「それでも」「まだまだ」といった接続語の変化など、叙述を基に場面を具体的に思い描きながら想像する力を高めていくのに適した教材である。</p> <p>指導に当たっては、「音読劇」をする活動を学習のゴールとして設定した。本単元は「お話の楽しさや面白さを味わう」ことをねらいとしている。そこで、毎時間の学習の過程で音読や動作化を取り入れることで、登場人物の気持ちを考え、役になり切って演じ、児童が直観的感性を働かせながら想像を広げ、楽しく読む力を高めていきたいと考える。また、本単元では、叙述を根拠として考えを形成する過程を大切にしたい。そのために、第二次では繰り返しの文や、登場人物が出てくる順番など、叙述に着目して考えることができるような発問を取り入れていく。発問によって新たな視点で物語を読み直すことで、改めてお話の面白さに気付いたり、叙述を基に自分の確かな考えを創造したりすることができるようにしていきたい。</p>	<p>児童はこれまで「くじらぐも」や「ふきのとう」の学習を通して、登場人物の行動や出来事を捉えて読み、そこから登場人物の行動を具体的に想像しながら読んだり、場面の様子などの叙述を基に、登場人物の様子や行動の理由を想像したりする学習を行ってきた。しかし、叙述を根拠としながら自分の考えをもって読む力がまだ十分身に付いていない。</p> <p>学習材「スイミー」は、小さな魚の兄弟たちと楽しく暮らしていたスイミーが、まぐろに兄弟を飲み込まれ、ひとりぼっちになってしまうものの、海にあるすばらしいものたちとの出会いにより元気を取り戻し、新しい仲間たちと一緒に大きなまぐろを追い出すという物語である。中心人物の様子を軸に起承転結が分かりやすく描かれたストーリーになっており、場面における情景や登場人物の様子を生き生きと具体的に想像することができる。比喩などの表現技法や場面の対比など、レオ＝レオニと谷川俊太郎による豊かな表現にたっぷり浸ることができる教材である。</p> <p>指導に当たっては、物語を読んだ感想を伝え合う活動を学習のゴールとして設定した。単元を通して着目した場面の様子などの叙述を基に、スイミーの行動を具体的に想像し、心情を考えながら読みを深めさせていきたい。第一次で捉えたあらすじをもとに、第二次では登場人物や場面の様子に着目するような発問を通して、スイミーの行動や会話に、具体的に思い描くことができるようにしていく。第二次で深めた読みをもとに、第三次では、お話を読んだ感想を書き、自分の考えを改めて整理する。単元を通して深まった自分の考えをもう一度整理することで、言葉を根拠にしながら自分の確かな考えを創造させ、このお話を読んで自分が感じたことを友達と伝え合う活動へとつなげていきたい。</p>

4 単元の目標

	1年生	2年生
知識及び技能	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。((1)ク)	○身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。((1)オ)
思考力・判断力・表現力	○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 (C (1)エ)	○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(C (1)エ)
学びに向かう力、人間性等	○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

5 単元の評価規準

	1年生	2年生
知識・技能	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (1) ク	○身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 (1) オ
思考・判断・表現	○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C (1) エ	○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C (1) エ
主体的に学習に取り組む態度	○積極的に、場面の様子や登場人物の行動を捉え、これまでの学習を生かして音読をしようとしている。	○進んで、登場人物の行動について場面の様子と結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、感想を伝えようとしている。

6 単元の指導と評価の計画（1年生8時間 2年生9時間扱い）

主な学習活動と評価						
評価	1年生「おおきなかぶ」	時	次	時	2年生「スイミー」	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範読を聞き、初発の感想を交流する。 ・ 音読劇をすることを覚える。 ・ 場面構成を確かめる。 ・ 登場人物を把握する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆音読を通して、繰り返しのリズムのよさや登場人物がどんどん増えることの面白さを感じることができるようになる。</p> </div>	1 2	第一次	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範読を聞き、初発の感想を書く。 ・ 登場人物を把握する。 ・ 物語を一文で表すことを通して物語のあらすじを確かめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆出来事や場面の様子からこのお話のよさを直観的に感じ取ることができるようにする。</p> </div>	
【知】 (1) ク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「どうして大きなかぶに育ったのか」についておじいさんの行動を動作化することを通して具体的に想像する。 ・ 繰り返しの文に着目し、『「○○かぶはぬけません。』の○○が全て同じだったらどうか』を音読を通して考える。 	3 4		第二次	3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ スイミーの行動や、様子を表す言葉から「○○なスイミー」の○○に入る言葉を考える。 ・ 暗い海の底で一人になったスイミーの気持ちを一番表しているところはどこか考える。
【思】 C (1) エ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「どうしてかぶは抜けたのか」について話し合うことを通して、小さく力の弱いねずみの存在に着目させる。 	5本時	5本時		5本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の様子に着目しながら、なぜスイミーは元気を取り戻していったのかを考える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「もしもかぶが抜けなかったら、誰を呼んでくるか」作者になったつもりで考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆「つかむ」発問で、一人一人が自分の考えをもって話し合い、「ゆさぶる」発問で、叙述や場面のつながりを根拠にしながら自分の考えを確かなものにしていくことができるようにする。</p> </div>	6		6 7	6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「スイミーはかんがえた。」の文に着目し、考えを振り絞っているスイミーの心情を考える。 ・ 2と5の場面のスイミーの行動や場面の様子を比べ、大きな魚を追いついたときのスイミーの行動を具体的に想像する。
【主】	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習したことを踏まえて、どのように音読したらよいかを考える。 ・ 音読劇をする。 ・ 単元の学習について振り返る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆これまでの学習をもとに、自分の考えを整理し、確かなものにしていくことができるようにする。</p> </div>	7 8	第三次		8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習したことを踏まえて、物語を読んだ感想を書く。 ・ お話の感想を伝え合う。 ・ 単元の学習について振り返る。

7 本時の指導（1年生5／8，2年生5／9）

(1) 1年生本時の指導（5／8）

- ① 目標：登場人物に着目して話し合うことを通して、想像を広げながら読むことができる。
- ② 展開

主な学習活動	○主な発問と指示 ・予想される児童の反応	【 】重点 ◇指導のための手立て 評価	直 間
1 本時の学習課題を把握し、学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">なぜかぶはぬけたのだろうか。</div>		◇前時の学習を想起し、おじいさんが思いをこめて育てた大きなかぶを、どうして抜くことができたのか考えさせる。	共通導入（5分）
2 自分の考えを明確にする。 3 それぞれの立場について理由をはっきりとさせながら発表する。	○どうしてかぶは抜けたのだと思いますか。 ・みんなで協力して引っ張ったから。 ・おじいさんが諦めなかったから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「つかむ」発問 ○一番の力持ちは誰だと思いますか。一番力が弱いのは誰だと思いますか。</div> ・一番の力持ちはおじいさんだと思う。 ・一番弱いのは小さいからねずみだと思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「ゆさぶる」発問 ○ねずみはこのお話に必要なだと思いますか。</div> ・必要だと思う。ねずみが来て引っ張ったからかぶは抜けたんだよ。 ・ねこまででは抜けなかったんだから必要だと思う。あとちょっとの力が必要だったんだよ。	◇音読を通して、登場人物がかぶを引っ張っている様子を想像させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「つかむ」発問 「解釈を問う」発問。かぶを抜くための「力の強さ」を視点に登場人物一人一人に着目させる。</div> ◇「大きな」かぶを抜くためにねずみのような「力の弱い」存在が関わっていることに着目させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「ゆさぶる」発問 「言葉・表現の有無でどんな効果があるのかを吟味させる」発問。 「力の弱い」ねずみに着目させることで、その役割について考えさせ、新たな気付きにつなげる。</div> ◇登場人物として必要か必要でないかについて問うことで、小さくて力の弱い存在が大きな成功を成し遂げることに欠かせないものであることに気付かせる。	直接指導（18分）
4 自分の考えを整理する。 5 考えの交流をする。	○みんなで話し合ったことをもとにして、「どうしてかぶは抜けたのか」自分の考えを書きましょう。 ・力が弱いねずみなどの動物たちも一緒に力を合わせたからかぶを抜くことができたのだと思う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">膨らませた自分の立場や考えを整理する活動 関わり合いで考えたことをもとに、改めて課題について自分の考えを表現させる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(評価)【記述・交流の様子】 ・登場人物に着目して、想像を広げながら読むことができています。 [思・判・表]C(1)エ</div>	間 接 指 導 （ 1 7 分）
6 本時の学習の振り返りをする。	・○○さんの話を聞いて、ねずみもこのお話に必要なんだなと思った。 ・力が弱くて小さいねずみが大きなかぶを抜くために大切だったのだと気づいた。		共 通 ま と め （ 5 分）

(2) 2年生本時の指導 (5/9)

- ① 目標：登場人物や場面の様子に着目して話し合うことを通してスイミーの心情について考えることができる。
 ② 展開

直 間	主な学習活動	○主な発問と指示 ・予想される児童の反応	【 】重点 ◇指導のための手立て 評価
共通導入 (5分)	1 本時の学習課題を把握し、学習の見通しをもつ。 なぜスイミーは元気をとりもどしていったのだろうか。		◇前時の学習を想起し、兄弟たちを失い、悲しみの中にいたスイミーが、どうして元気を取り戻していったのかを考えさせる。
間接指導 (18分)	2 自分の考えを明確にする。 3 考えの交流をする。	「つかむ」発問 ○なぜスイミーは元気を取り戻していったのでしょうか。 ・海の「すばらしいもの」を見て、励まされたからだと思う。 ・くらげやいせえびなどの「すばらしいもの」を見たことで、気持ちが明るくなったからだと思う。	「つかむ」発問 「解釈を問う」発問。 スイミーが元気を取り戻すきっかけとなった「すばらしいもの」に焦点を絞って話し合わせる。 ◇「すばらしいもの」にサイドラインを引かせる。 ◇なぜ「すばらしいもの」を見ることでスイミーは元気を取り戻していったのかについて自分の考えを記述させ、交流させる。
直接指導 (17分)	4 それぞれの立場について理由をはっきりとさせながら発表する。 5 自分の考えを整理する。	「ゆさぶる」発問 ○「くらげ」と「にじ色のゼリーのようなくらげ」では、どのように違いますか。 ・「にじ色のゼリーのようなくらげ」は、カラフルでゼリーみたいにプルプルしている感じがする。 ・「水中ブルドーザーみたいないせえび」もただの「いせえび」より強そうな感じがするよ。 ○みんなで話し合ったことをもとにして、「スイミーはなぜ元気をとりもどしたのか」について自分の考えを書きましょう。	「ゆさぶる」発問 「比べることで違いを見つけ、表現の特徴を読み取らせる」発問。スイミーが元気を取り戻すきっかけとなっている「すばらしいもの」の表現に着目させ、その様子を具体的に想像させる。 ◇表現の仕方について話し合うことを通して、このお話の中で「すばらしいもの」がスイミーにとって欠かせない存在であったことに気付かせる。 膨らませた自分の立場や考えを整理する活動 関わり合いで考えたことをもとに、改めて課題について自分の考えを表現させる。
共通まとめ (5分)	6 本時の学習の振り返りをする。	・はじめは、すばらしいものについてあまり考えていなかったけれど、「くらげ」と「にじ色のゼリーのようなくらげ」を比べてみたら、「にじ色のゼリーのような」がある方がカラフルで楽しい感じがした。だからスイミーは元気を取り戻すことができたのだと思った。	(評価)【記述・交流の様子】 ・登場人物や場面の様子に着目して読み、登場人物の心情について考えている。[思・判・表]C(1)エ

社会科

3・4年

岩手大学教育学部附属小学校

令和4年6月17日(金)

第3学年 店ではたらく人と仕事

第4学年 ごみのしよりと利用

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



- 異学年異内容の社会科授業の実践です。本校の複式社会科は、「共通導入→3年生の直接指導→4年生の直接指導→共通まとめ」のような学習過程を基本として、それぞれの学習内容に取り組んでいます。各学年の発達段階にあった内容を系統的に学習することができるので、社会科の「基礎・基本」を身に付けることができます。異学年異内容の学習の充実を図るためには、間接指導で個人の学びを深められるかがポイントです。本学級では、各学年が間接指導の際に見通しをもって学習できるよう、「学びの手引きシート」の活用を図っています。学年に応じて、学び方を理解し、自ら学び進める力を身に付けることができます。



最初に直接指導をすることが多い3年生には「学びの再構成」を、間接指導からスタートする4年生には「資料からの情報を取り出す力を高めること、自分なりの考えをもつこと」をねらいとして、「学びの手引きシート」を配付します。直接指導の後に間接指導になることが多い3年生に対しては、振り返りの観点や、発表の仕方（ノートにまとめる、4年生に説明するなど）に関するシートを作成します。4年生は、学び方と共に必要な資料を精選して掲載し、子どもたちが本時の学びに必要な知識を得られるように工夫しています。

このようにして、間接指導での学び方を明確にし、自ら学び進めることができるようにすることで、直接指導で考えさせたいことや身に付けたい力についても明らかになり、複式での学びを充実したものとすることができます。

- 異学年少人数である複式学級のよさを生かしながら、問いが連鎖し、社会的事象の意味にせまることができるように、自分の考えをもつための発問やICTの活用を工夫しました。直接指導での発問では、「比較すること」「関連付けること」「総合すること」それぞれの機能と効果を考えながら授業に位置付け、意図的に発問することにより、児童がそれぞれの考えをもつことができるようになります。また、間接指導の際にはICTの活用を図ることで、動画を用いて学習内容を確認すること、ロイロノートでの振り返りの共有を行います。「教師⇄児童」「児童⇄児童」という多様な関わりが生まれ、児童の考えをより深めることができます。

さらに、終末場面においては、学習内容を異学年間で交流することで、それぞれの学習の共通点に気づき、新たな問いへとつなげられるようになります。



「比較」には社会的事象の特色を明確に捉え、考えることができる効果が、「関連付け」には社会的事象の多面的・多角的な関連性を捉え、考えることができる効果が、「総合」には社会的事象の意味を総合的に捉え、考えることができる効果があります。それぞれの段階で児童に考えさせたいことは何かを明確にししながら、そして、資料を目にしたときのつぶやきや表情、児童どうしの発言のつながりなど、学びの様子をよく見ながら発問をすることが大切です。ICTでの資料提示の際には、ねらいと意図を明確にして精選を図ること、一部分をマスキングしたり、アップにしたりして提示の仕方を工夫すること、また、共有をする際には、着目させたい部分について声がけを行い、関わりをコーディネートすることなどが、より児童の学びを深めるためには大切です。

第3・4学年複式 社会科学学習指導案

場 所 3・4年すずらん組教室
指導者 白間 勇 輔

- 1 単元名 【3年】 2 はたらく人とわたしたちの暮らし (1) 店ではたらく人と仕事
【4年】 2 健康なくらしとまちづくり (1) ごみのしよりと利用

2 指導計画

(1) 各学年の単元目標

○3年生

地域にみられる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事にみられる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

○4年生

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々との協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基にごみの減量のために自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

(2) 評価規準

	3 年 生	4 年 生
知識・技能	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売上を高めるよう、工夫して行われていることを理解している。	①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っている事を理解している。
思考・判断・表現等	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。 ②地域に見られる販売の仕事と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。 ②廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付け、廃棄物の処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。
主体的に学習に取り組む態度	①地域に見られる販売の仕事について、予想や学習問題を立てたり、振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。	①廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしている。

3. 単元計画 (3年…全13時間) (4年…全13時間)

時	3年生		4年生	
	○学習活動	【】評価規準	○学習活動	【】評価規準
1	○普段、家の人とよく行く店を白地図にまとめ、買い物調べの見通しをもつ。 【知技①】		○家から出るごみに着目し、様々な種類や量のごみが出ていること、収集にきまりがあることを捉える。 【知技①】	
2	○買い物調べの結果をまとめ、学習問題をつくる。 【思判表①】【態度①】		○ごみのゆくえを考えながら、学習問題をつくる。 【思判表①】【態度①】	
3 4 5	○スーパーマーケットで見学をし、気付いたことを話し合う。 【知技①】		○清掃工場やリサイクルセンターを見学し、わかったことを整理する。 【知技①】	
6	○売り場を見学して見つけた工夫を発表する。 【知技①】			
7	○スーパーマーケットで働く人の仕事について調べる。 【知技①】		○ごみを燃やした後の工夫について調べる。 【知技①】	
8	○スーパーマーケットの品物の産地を調べ、他地域とのつながりを考え、発表し合う。 【知技①】			
9	○インタビューをもとに、お客さんがスーパーマーケットを利用する理由を考える。 【知技①】		○ごみ処理の移り変わりや、抱える問題について調べ、わかったことを発表し合う。 【知技①】	
10	○スーパーマーケットは品物を売る以外にどのような取り組みをしているかを調べ、特色を明らかにする。 【知技①】		○ごみを減らすために、地域で行われている工夫について調べ、発表し合う。 【知技①】	
11	○調べたことをふり返りながら、グループで壁新聞にまとめ、4年生やスーパーマーケットを利用する地域の方々へ発信する。(重点(1)イ) 【思判表②】【知技②】		○これまでの学習でわかったことや考えたことを発表し合う。 【知技②】	
12 13			○ごみを減らすために自分たちができることをポスターにまとめ、3年生や家族へ発信する。(重点(1)イ) 【態度②】【思判表②】	

4 本時の指導 (3年 6/13時間) (4年 10/13時間)

(1) 目標

【3年生】

スーパーマーケットの売り場を見学して気付いたことをもとに、売り場には、お客さんのためのさまざまな工夫があることを理解することができる。(知識・技能)

【4年生】

ごみを減らすための身近な人々の工夫を調べ、ごみ処理の問題を解決するために、地域の人々が協力することの大切さについて理解することができる。(知識・技能)

(2) 評価

	3年生	4年生
評価の観点	知識・技能	知識・技能
評価方法と評価規準	ノートの記述や発言内容から、「必要な情報を読み取り、スーパーマーケットの売り場には、お客さんのためのさまざまな工夫があることを理解しているか」を評価する。	ノートの記述や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ごみを減らすために人々が協力し、地域での取り組みが行われていることについて理解しているか」を評価する。
努力を要する児童の手立て	ノートへのまとめ方を個別指導する。また、一緒に板書を振り返ったり、資料から分かったことを確認したりする。	

(3) 展開

3 年生			4 年生		
指導上の留意点	学習活動	直接・間接	学習活動	指導上の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・実物の野菜を提示することで、関心を高めながら学習課題を設定するようにする。 	1. 様々な売り方の野菜を見て話し合い、本時の学習課題を設定する。	問題の把握	1. 前時の学習をふり返りながら、本時の学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・数々の課題がありながら、ごみの排出量が減っていることをグラフで確認することで、関心を高めながら学習課題を設定できるようにする。 	
スーパーマーケットの売り場には、どのようなくふうがあるのだろう。		共通導入 5分	盛岡市では、ごみの量をへらすために、どのような取り組みをしているのだろう。		
<ul style="list-style-type: none"> ・簡単に振り返りながら交流することで、根拠をもって予想できるようにする。 ・4年生が追究の見通しをもつ間、予想を考えて待つように声がけをする。 	2. どのような工夫がありそうか予想する。 3. 追究の方法の見通しをもつ。	共通導入 5分	2. どのような取り組みが行われているかを予想する。 3. 追究の方法を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己学習を進められるよう学習の手引きを準備し、追究の仕方に見通しをもてるようにする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童が工夫について想起しやすいように、実物や写真資料を用いて追究を進めるようにする。 ・どのような客層が買っているかと思う理由を問い、様々なサイズの野菜がお客さんのための工夫であることを理解できるようにする。 ・工夫については、焦点化して話し合いを進めることとする。 	4. 資料をもとに、課題の追究を行う。 (1) なぜ様々なサイズの野菜が販売されているか考える。 (2) 他にもスーパーマーケットで見つけた工夫について交流する。	問題の追究 ①	4. 手引きをもとに、ごみを減らすための取り組みを調べる。 (1) 「3R」について調べる。 (2) 副読本をもとに、地域で行われている取り組みを調べる。 (3) 交流したことをもとに、自分の考えをノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「3R」のそれぞれの言葉と意味について、それぞれで確実に理解するよう指示をする。 ・一つ一つの取り組みが、「3R」のどれに当たるのかを考えられるように指示をする。 ・自分たちや自分たちの周りで行われている取り組みについて交流する機会を設けることで、身近なこととして理解できるようにする。 ・まとめたことを交流することで、他者の考え方の視点を学ぶ機会としたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の例と比較しながら児童の意見を切り返したりつないだりし、様々な工夫は全て、お客さんのためであることを理解できるようにする。 ・「店長さんのお話」を映像で提示し、まとめの検証とする。 	5. 交流した工夫は何のためにあるのかを考える。 6. 学習をまとめ、間接指導の活動内容を知る。	直接指導 18分			
<ul style="list-style-type: none"> ・自己学習を進められるよう学習の手引きを準備し、追究の仕方に見通しをもてるようにする。 ・学習の手引きをもとに、板書をノートにまとめる。 	7. 手引きをもとに、その他の工夫について考える。 (1) 学習をして分かったことをまとめる。 (2) スーパーマーケットの売り場の工夫について、他にもないか調べる。 (3) 考えを交流し、それぞれの工夫の意味について考える。	問題の追究 ②	5. 調べたことをもとに、課題の追究を行う。 (1) 「3R」とその意味を捉える。 (2) ごみを減らすために行われている取り組みを捉える。 (3) 実際に行われている取り組みが、ごみを減らすことに貢献することを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・間接指導で調べたことをもとに、「3R」と意味を確認する。 ・一つ一つの取り組みが、「3R」のどれに当たるのかを確認し、学習内容をつなげる。 ・上記の取り組みが本当にごみを減らすことになるのかを問うた後でエコレシピの写真や材料と、通常の料理の写真や材料の実物を比較することで、ごみ減量に効果があることを、実感を伴って理解できるようにする。 ・他の取り組みについても考える時間を設ける。 ・学習したことをもとに、自分たちにできることはないかを考える時間を設け、自分のこととして考えられるようにする。 ・市役所の方の話をもとにした資料から、一人一人の意識や協力が、ごみを減らすことにつながることに気付くようにする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことを交流することで、他者の考え方の視点を学ぶ機会としたい。 		間接指導 17分	6. ごみを減らすために、自分たちにできそうなことについて考える。 7. 学習をまとめる。		
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を全体で振り返ることで、各学年の学びのつながりに目を向けられるようにする。 	8. 本時の学習を振り返る。	まとめ	8. 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を全体で振り返ることで、各学年の学びのつながりに目を向けられるようにする。 	
※評価 ノートの記述や発言内容から、「スーパーマーケットの売り場には、お客さんのためのさまざまな工夫があることを理解しているか」を評価する。		直接指導 5分		※評価 ノートの記述や発言内容から、「ごみを減らすために人々が協力し、地域での取り組みが行われていることについて理解しているか」を評価する。	

3年生 学びの手引き

(1) 授業のまとめ (3分)

黒板を見て, ノートをまとめよう。

- (1) 黒板に書いている文字をノートに書きましょう。
- (2) まとめをノートに書きましょう。

(2) お客様のためのくふう (10分くらい)

ロイロノートにある, 店の中の様子の動画から, 「お客様のためのくふうだな。」と思ったところを「スクリーンショット」しましょう。

- (1) 動画を見る。
- (2) くふうだと思ったところをスクリーンショット(カメラのマークを押す)する。
- (3) (できたら)スクリーンショットした画像をつなげておく。

(3) ぼく・わたしのおすすめのくふう (3分)

- ①見つけたくふうの中から, 4年生につたえたいものを 2つえらびましょう。
- ②4年生につたえる練習をしましょう。

4年生 学びの手引き

(1) もやせないごみのしよりのしかた…まとめ

もやせないごみのしよりのしかたについて、資料をもとに、ノートにまとめましょう。

※例 ◎そだいごみ

① ～ → ② ～ →

◎びん・カン・ペットボトル

◎電池

(2) クリーンセンターとくらべて…

クリーンセンターでのごみのしよりとくらべて、大きなちがいはどこか、ノートに考えをまとめましょう。

(3) リサイクルセンターで働く人の願い

リサイクルセンターで働く人たちの願いは何だったか、ノートに考えをまとめましょう。

※ 書き終わったら、前と後ろのペアで、書いたことの交流をしましょう。前と後ろのペアが終わったら、男子1人、女子1人と交流し、考えをふやして待ちましょう。

複式指導資料第36集（令和4年度）

いわての複式指導実践事例集

-----協力校（事例順）-----

八幡平市立平笠小学校
花巻市立笹間第二小学校
遠野市立小友小学校
奥州市立黒石野小学校
陸前高田市立矢作小学校
宮古市立川井小学校
一戸町立小鳥谷小学校
岩手大学教育学部附属小学校

-----作成協力（事例順）-----

盛岡教育事務所	主任指導主事	田代英樹
盛岡教育事務所（矢巾町）	指導主事	小野寺良明
中部教育事務所	指導主事	三浦健
県南教育事務所	指導主事	川村晃博
沿岸南部教育事務所（陸前高田市）	指導主事	岩淵勝也
宮古教育事務所	指導主事	上田佳穂
県北教育事務所	主任指導主事	岡田政志
岩手大学教育学部附属小学校	教諭	金子裕輔

参考資料

複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド（岩手県立総合教育センター）



岩手県教育委員会事務局学校教育室

<https://www.pref.iwate.jp/index.html>

トップページ > 教育・文化 > 教育 > 学校教育 > 小学校・中学校教育 > 小規模・複式指導について

